

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月21日



高める、つくる、そして、支える。



熊谷組

I .2026年3月期 財務情報

1.ハイライト	……P.3
2.決算の概況【連結】	……P.4
3.単体受注高	……P.5
4.損益計算書	……P.9
5.連結子会社の業績	……P.12
6.完成工事高および完成工事総利益(率)【連結】	……P.13
7.完成工事高および完成工事総利益(率)(国内)【単体】	……P.14
8.四半期毎の完成工事高および完成工事総利益(率)の推移【連結】【単体】	……P.15
9.繰越工事高の推移【単体】	……P.16
10.販売費及び一般管理費、営業利益および経常利益の推移【連結】	……P.17
11.貸借対照表【連結】	……P.18
12.自己資本、自己資本比率およびROE【連結】	……P.20
13.株主還元【連結】	……P.21
14.有利子負債【連結】	……P.22
15.キャッシュ・フロー【連結】	……P.23
16.設備投資、減価償却費、研究開発費の推移【連結】	……P.24
17.中東情勢及び米国の関税措置による事業および業績への影響	……P.25

II.企業価値向上に向けた取組み

18.企業価値向上に向けた取組み	……P.26
------------------	--------

III.住友林業との協業

19.住友林業との協業	……P.32
-------------	--------

IV.非財務目標の取組み状況

20.ESG取組方針	……P.37
21.ESG取組方針 ～重要課題・個別課題～	……P.38
22.外部からの評価・イニシアチブへの参画	……P.43

1. ハイライト

1

受注高は減少【単体】

- ・国内建築事業の減少により全体受注高は減少
- ・国内建築事業の減少は、施工体制を鑑みた計画的抑制及び受注内定案件の翌期への期ずれが主要因。受注時採算は改善を継続

2

完成工事高は減少。各利益は増加【連結】

- ・子会社群の減少により完成工事高は減少、単体完成工事高は前期と同水準
- ・国内建築事業の売上総利益率の改善により、営業利益以下、各利益いずれも増益

3

2027年3月期見通し【連結】

- ・売上高5,000億円、経常利益310億円を見込む
(中期計画最終年度財務目標 売上高5,000億円、経常利益300億円)

4

株主還元

- ・26/3期の配当は47円/株(中間20円/期末27円)、配当性向は40.2%
- ・27/3期の配当は50円/株(中間25円/期末25円)、配当性向は41.6%

2. 決算の概況【連結】

(単位: 億円)

	A.2025/3期 通期 実績	B.2026/3期 通期 実績	B-A 対前期 増減	C.2027/3期 通期 予想	C-B 対当期 増減
完成工事高	4,986	4,877	▲109	5,000	123
営業利益	143	271	128	309	38
経常利益	144	270	126	310	40
親会社株主に帰属する 当期純利益	94	201	107	204	3
単体受注高	3,794	3,162	▲632	3,879	717

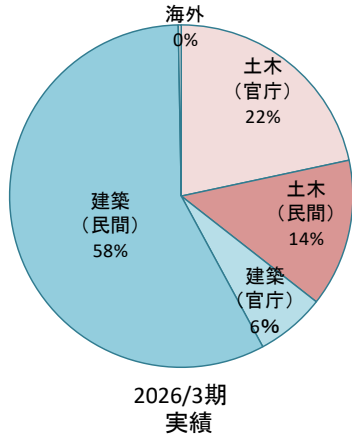
3. 単体受注高① 実績と予想

【単体】

			A.2025/3期 通期 実績	B.2026/3期 通期 予想	C.2026/3期 通期 実績	C-A 増減		C-B 増減		D.2027/3期 通期 予想	D-C 増減	
						増減	増減率	増減	増減率		増減	増減率
国内	官庁		633	700	684	52	8.1%	▲ 16	-2.3%	690	6	0.9%
		民間	472	450	441	▲ 31	-6.5%	▲ 9	-2.0%	510	69	15.6%
	土木		1,104	1,150	1,125	21	1.9%	▲ 25	-2.1%	1,200	75	6.6%
	官庁		218	200	207	▲ 11	-5.1%	7	3.3%	251	44	21.5%
		民間	2,425	2,160	1,821	▲ 604	-24.9%	▲ 339	-15.7%	2,355	534	29.3%
	建築		2,643	2,360	2,028	▲ 615	-23.3%	▲ 332	-14.1%	2,606	578	28.5%
			3,747	3,510	3,153	▲ 594	-15.9%	▲ 357	-10.2%	3,806	653	20.7%
海外			47	90	9	▲ 38	-80.9%	▲ 81	-90.1%	73	64	720.2%
受注高			3,794	3,600	3,162	▲ 632	-16.7%	▲ 438	-12.2%	3,879	717	22.7%

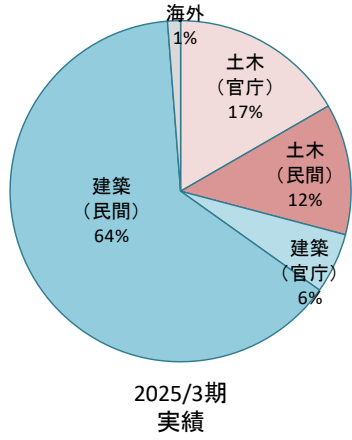
(単位:億円)

(受注高構成)



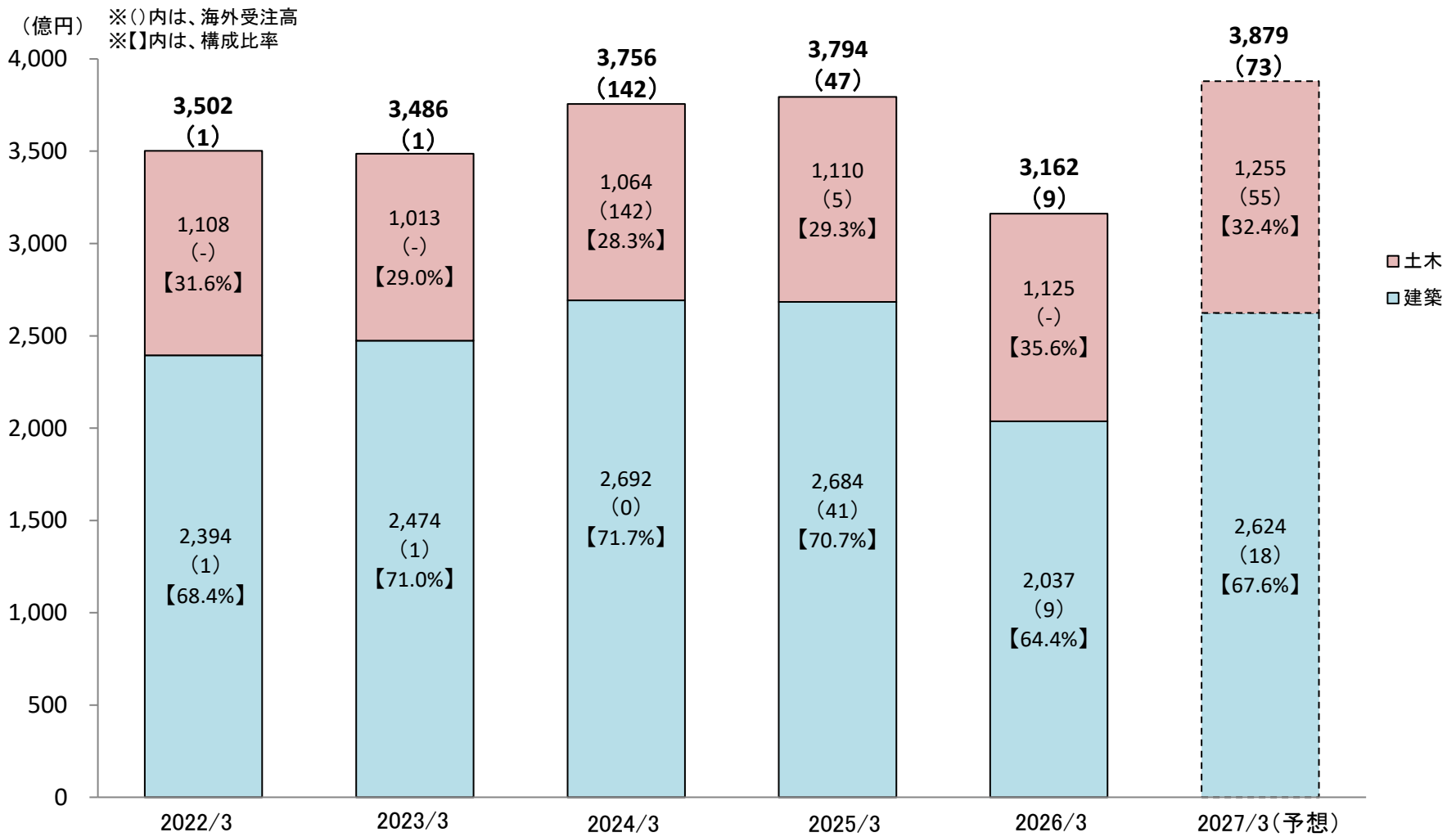
【当期に受注した主な工事】

土・建	官民	発注者	工事名	所在地
土木	官庁	中日本高速道路株式会社	東名高速道路(特定更新等)諸淵橋他3橋床版取替工事	神奈川県
土木	官庁	国立大学法人東京大学	東京大学(岐阜県神岡)ハイパーカミオカンデ(水槽及びPMT支持架構等)工事	岐阜県
土木	官庁	東京都	東大島幹線その3工事	東京都
土木	民間	北陸電力株式会社	蒲生発電所 武周湖ダム改修工事(含む関連除却工事)	福井県
建築	民間	野村不動産株式会社	(仮称)Landport北伊丹新築工事	兵庫県
建築	民間	日華化学株式会社	日華化学(株)福井スマートファクトリー(新化粧品工場建設)	福井県
建築	民間	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社・三菱地所レジデンス株式会社・株式会社大京	(仮称)千代田区六番町計画共同住宅新築工事	東京都
建築	民間	学校法人成城学園	学校法人成城学園 大学10号館新築計画	東京都



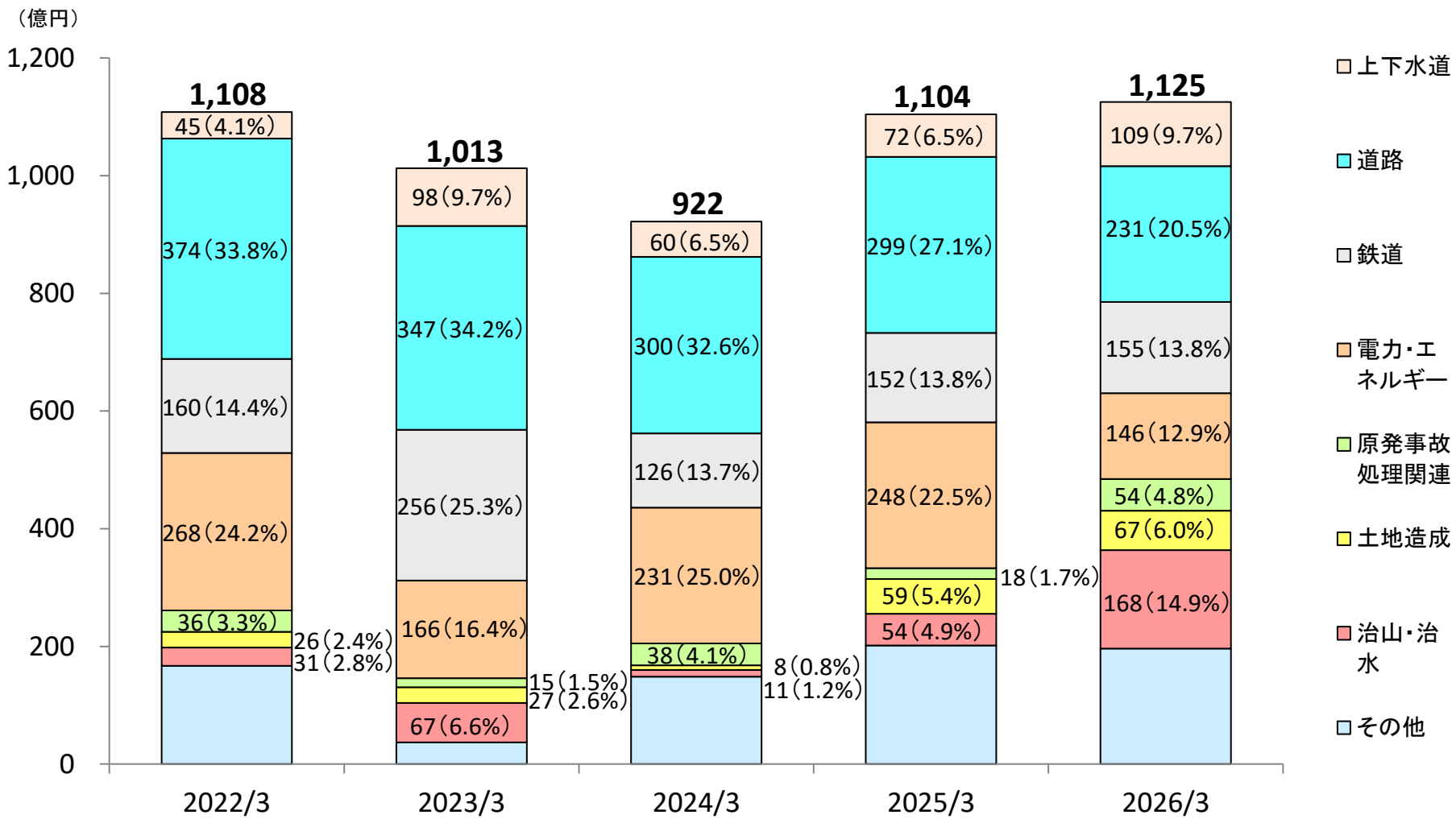
3. 単体受注高② 推移

- 26/3期は土木は増加したものの建築の減少により、前期を下回る
- 27/3期は25/3期以前の水準を上回る受注獲得を見込む



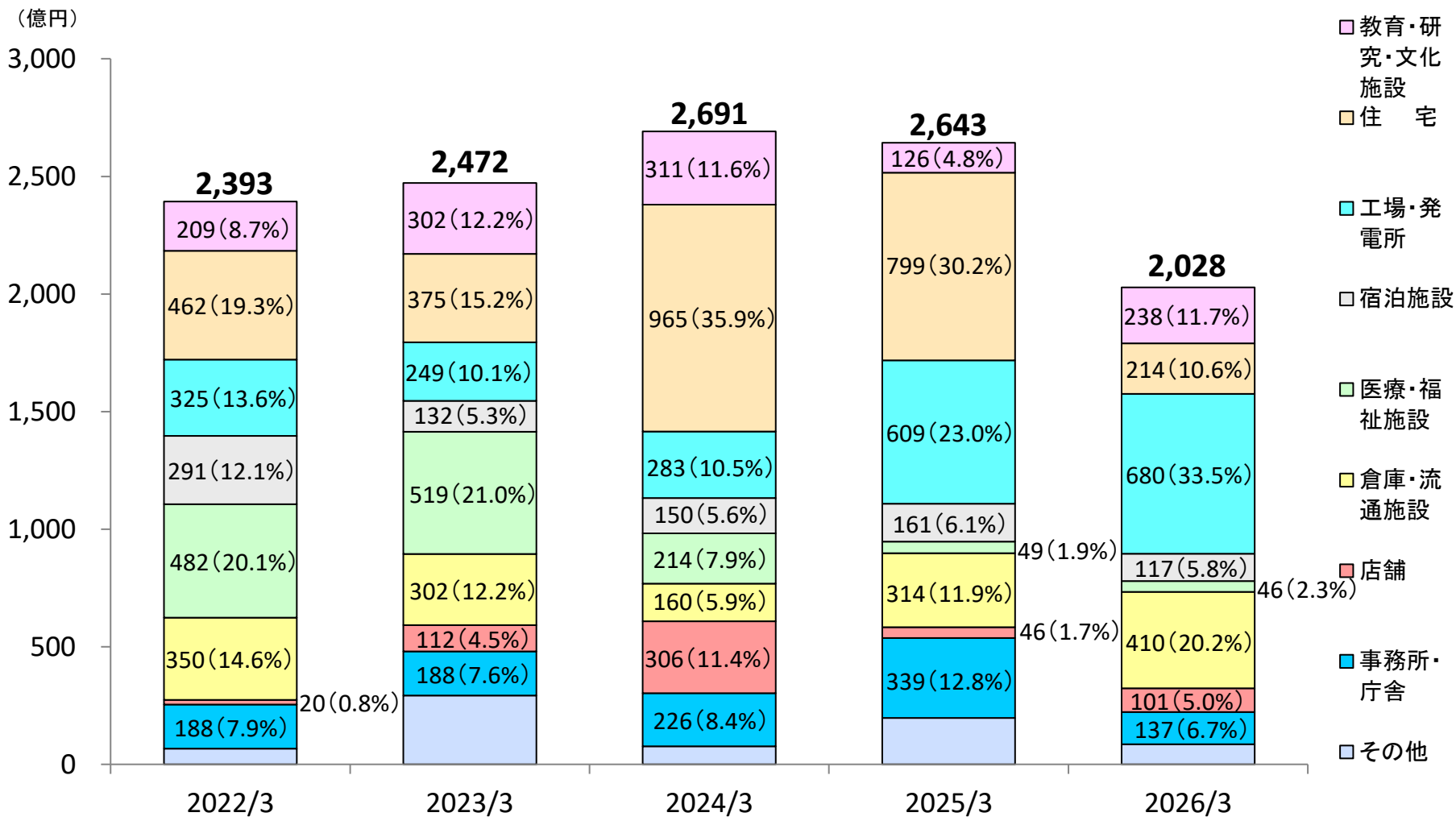
3. 単体受注高③ 土木(国内)

- 随意契約や設計変更で大型の受注もあり、前期を上回る
- 大型ダム工事の受注により治山・治水分野が増



3. 単体受注高④ 建築(国内)

- 計画的抑制及び内定案件の翌期への期ずれ等により、前期を下回る
- 教育施設や工場、倉庫・流通分野で大型案件を複数受注



4. 損益計算書① 実績と予想【連結】

【連結】 (単位:億円)

	A.2025/3期			B.2026/3期			C.2026/3期			C-A			C-B			D.2027/3期			D-C					
	通期 実績			通期 予想			通期 実績			増減			増減			通期 予想			増減					
	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	増減率	連結	単体	子会社等	増減率	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	増減率
完成工事高	4,986	3,723	1,263	4,930	3,620	1,310	4,877	3,731	1,146	▲109	8	▲117	-2.2%	▲53	111	▲164	-1.1%	5,000	3,770	1,230	123	39	84	2.5%
完成工事総利益 (利益率)	383	262	121	490	370	120	532	403	129	149	141	8	3.2%	42	33	9	1.0%	581	454	127	49	51	▲2	-1.0%
一般管理費	240	184	56	262	200	62	261	201	60	21	17	5		▲1	1	▲2		272	207	65	11	6	5	
営業利益 (利益率)	143	78	65	228	170	58	271	202	69	128	124	4	89.5%	43	32	11	18.8%	309	247	62	38	45	▲7	14.1%
営業外収益	14	26	▲12	16	38	▲22	21	46	▲25	6	20	▲13		5	8	▲3		27	58	▲31	6	12	▲6	
営業外費用	13	13	▲0	14	11	3	21	20	1	8	7	1		7	9	▲2		26	20	6	5	▲0	5	
経常利益 (利益率)	144	90	54	230	197	33	270	228	43	126	137	▲11	87.7%	40	31	10	17.6%	310	285	25	40	57	▲18	14.6%
特別利益	1	1	0	42	42	0	43	42	0	42	42	0		1	0	0		0	0	0	▲43	▲42	▲0	
特別損失	7	3	4	1	0	1	14	11	3	7	8	▲1		13	11	2		1	0	1	▲13	▲11	▲2	
税金等調整前 当期純利益	138	88	50	271	239	32	299	259	41	161	171	▲10	116.9%	28	20	9	10.5%	309	285	24	10	26	▲17	3.2%
法人税、住民税及び 事業税	36	20	17	85	66	19	97	74	23	61	54	6		12	8	4		103	82	21	6	8	▲2	
法人税等調整額	8	6	2	1	1	0	2	3	▲2	▲6	▲3	▲4		1	2	▲2		2	4	▲2	0	1	▲0	
当期純利益	94	62	31	185	172	13	201	181	19	107	119	▲12	114.5%	16	9	6	8.5%	204	199	5	3	18	▲14	1.7%
非支配株主に帰属する 当期純損失	-	-	-	-	-	-	▲0	-	▲0	▲0	-	▲0		▲0	-	▲0		0	-	0	0	-	0	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	94	62	31	185	172	13	201	181	19	107	119	▲12	114.5%	16	9	6	8.5%	204	199	5	3	18	▲14	1.7%

【連結子会社 9社】

(株)ガイアート、テクノス(株)、ケーアントイー(株)、(株)ファテック、テクノスペースクリエイツ(株)、(株)テクニカルサポート、(株)KGティノリゾート、ローカルエナジーシステム(株)、華熊營造(股)(台湾)

【持分法適用会社 4社】

笹島建設(株)、共栄機械工事(株)、(株)前田工務店、Japan Wind Farm Construction(株)

4. 損益計算書② 実績と予想【単体】

【単体】

(単位: 億円)

		A.2025/3期		B.2026/3期		C.2026/3期		C-A		C-B		D.2027/3期		D-C	
		通期 実績		通期 予想		通期 実績		増減		増減		通期 予想		増減	
		利益率		利益率		利益率		増減率	利益率	増減率	利益率	利益率		増減率	利益率
国内	土木	1,018		1,050		1,118		101	9.9%	68	6.5%	1,200		82	7.3%
	建築	2,672		2,500		2,547	▲ 125	-4.7%	47	1.9%	2,505	▲ 42	-1.6%		
		3,689		3,550		3,665	▲ 24	-0.7%	115	3.2%	3,705	40	1.1%		
海外		34		70		66	32	95.4%	▲ 4	-5.7%	65	▲ 1	-1.5%		
完成工事高		3,723		3,620		3,731	8	0.2%	111	3.1%	3,770	39	1.0%		
国内	土木	153	15.0%	125	11.9%	151	13.5%	▲ 2	-1.5%	26	1.6%	150	12.5%	▲ 1	-1.0%
	建築	107	4.0%	240	9.6%	248	9.8%	141	5.8%	8	0.2%	300	12.0%	52	2.2%
		260	7.0%	365	10.3%	399	10.9%	140	3.9%	34	0.6%	450	12.1%	51	1.2%
海外		3	7.5%	5	7.1%	4	5.9%	1	-1.6%	▲ 1	-1.2%	4	6.2%	0	0.3%
完成工事総利益		262	7.0%	370	10.2%	403	10.8%	141	53.7%	33	9.0%	454	12.0%	51	12.6%
一般管理費		184		200		201		17		1		207		6	
人件費		83		96		89		6		▲ 7		91		2	
物件費		101		104		112		11		8		116		4	
営業利益		78	2.1%	170	4.7%	202	5.4%	124	159.6%	32	18.9%	247	6.6%	45	22.2%
営業外収益		26		38		46		20		8		58		12	
営業外費用		13		11		20		7		9		20	▲ 0		
経常利益		90	2.4%	197	5.4%	228	6.1%	137	151.8%	31	15.5%	285	7.6%	57	25.2%
特別利益		1		42		42		42		0		0	▲ 42		
特別損失		3		0		11		8		11		0	▲ 11		
税引前当期純利益		88		239		259		171	194.2%	20	8.3%	285		26	10.1%
法人税、住民税及び事業税		20		66		74		54		8		82		8	
法人税等調整額		6		1		3		▲ 3		2		4		1	
当期純利益		62	1.7%	172	4.8%	181	4.9%	119	191.1%	9	5.4%	199	5.3%	18	9.7%

4. 損益計算書③ 営業外損益および特別損益の内訳【連結】

営業外損益の状況(連結)

(単位:億円)

	A.2025/3期 通期 実績			B.2026/3期 通期 実績			B-A 増減		
	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等
受取利息配当金	12.1	25.2	▲ 13.2	14.5	41.6	▲ 27.1	2.5	16.4	▲ 13.9
持分法による投資利益	1.6	-	1.6	-	-	-	▲ 1.6	-	▲ 1.6
為替差益	-	-	-	1.9	1.6	0.3	1.9	1.6	0.3
その他	0.9	0.8	0.1	4.5	2.4	2.1	3.7	1.6	2.1
営業外収益 計	14.5	26.0	▲ 11.6	20.9	45.6	▲ 24.7	6.4	19.5	▲ 13.1
支払利息	5.7	6.1	▲ 0.4	10.0	10.7	▲ 0.7	4.3	4.6	▲ 0.3
債権売却損	1.2	1.2	-	2.5	2.5	0.0	1.3	1.3	0.0
持分法による投資損失	-	-	-	0.5	-	0.5	0.5	-	0.5
シンジケートローン手数料	2.4	2.4	-	0.8	0.8	-	▲ 1.6	▲ 1.6	-
投資事業組合運用損	2.8	2.8	-	4.7	4.7	-	1.9	1.9	-
為替差損	0.3	0.1	0.2	-	-	-	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.2
その他	1.0	0.9	0.1	2.8	1.4	1.4	1.9	0.5	1.3
営業外費用 計	13.4	13.5	▲ 0.1	21.3	20.1	1.2	7.9	6.6	1.3

特別損益の状況(連結)

(単位:億円)

	A.2025/3期 通期 実績			B.2026/3期 通期 実績			B-A 増減		
	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等
固定資産売却益	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.3	0.4	0.1	0.2
投資有価証券売却益	0.5	0.5	-	42.1	4.5	37.6	41.6	3.9	37.6
関係会社株式売却益	-	-	-	-	37.6	▲ 37.6	-	37.6	▲ 37.6
その他	0.1	0.0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.0
特別利益 計	0.6	0.5	0.1	42.8	42.4	0.3	42.2	41.9	0.3
固定資産除却損	0.1	0.0	0.1	0.7	0.0	0.7	0.6	0.0	0.6
関係会社株式評価損	3.4	0.6	2.8	-	-	-	▲ 3.4	▲ 0.6	▲ 2.8
損害賠償金	2.0	1.5	0.6	0.7	0.7	-	▲ 1.3	▲ 0.7	▲ 0.6
訴訟関連損失	0.9	0.9	-	4.3	4.3	-	3.4	3.4	-
減損損失	0.0	-	0.0	7.4	5.5	1.9	7.3	5.5	1.9
その他	0.3	0.0	0.3	0.9	0.7	0.2	0.5	0.7	▲ 0.2
特別損失 計	6.7	3.0	3.8	13.9	11.3	2.7	7.2	8.3	▲ 1.1

5. 連結子会社の業績

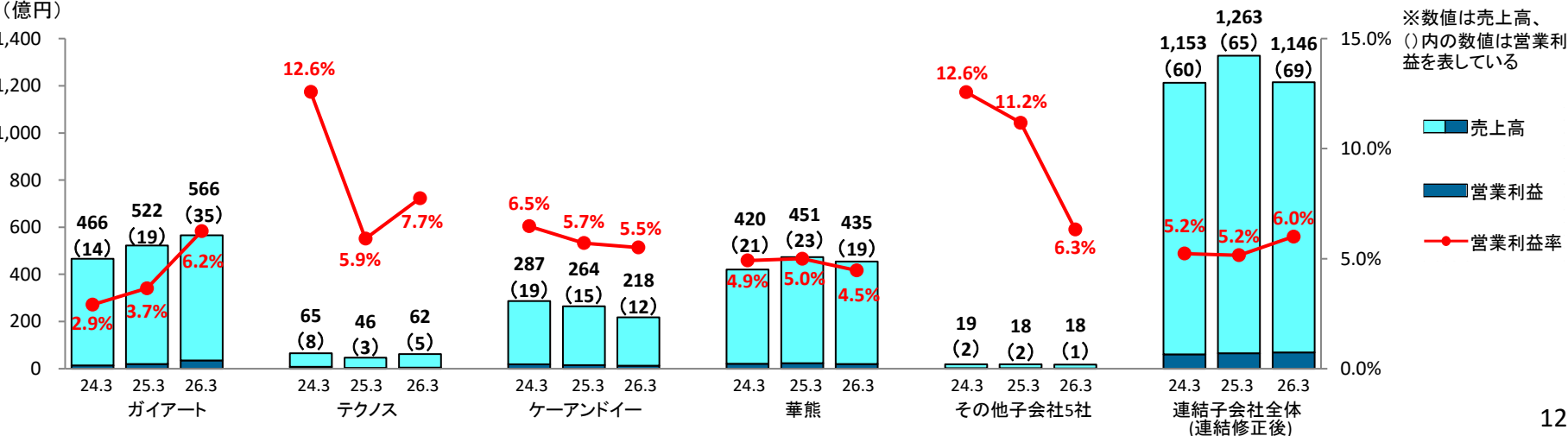
- ・K&Eの手持ち工事減少や華熊の前期大型工事の反動減により売上高は減少
- ・ガイアートがけん引し、利益額・利益率ともに改善

連結子会社の業績

(単位: 億円)

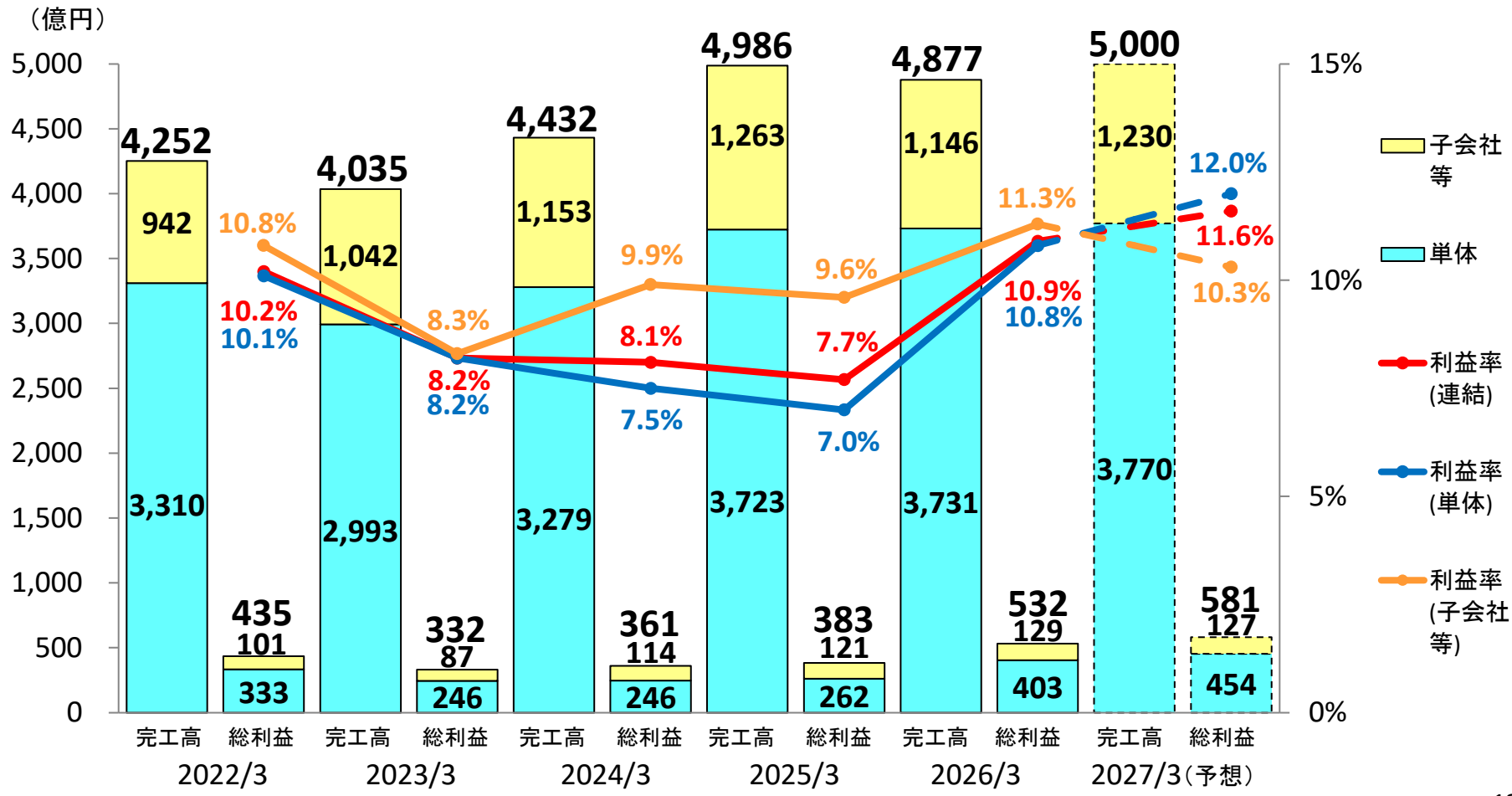
	株式会社ガイアート			テクノス株式会社			ケーアンドイー株式会社		
	2024/3期	2025/3期	2026/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	466	522	566	65	46	62	287	264	218
営業利益	14	19	35	8	3	5	19	15	12
経常利益	14	20	36	8	3	5	19	16	13
当期純利益	8	13	22	6	2	3	12	11	8

	華熊營造股份有限公司(台湾)			その他子会社5社			連結子会社合計 (連結調整後)		
	2024/3期	2025/3期	2026/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	420	451	435	19	18	18	1,153	1,263	1,146
営業利益	21	23	19	2	2	1	60	65	69
経常利益	21	22	22	2	2	1	52	54	43
当期純利益・損失(▲)	16	18	18	2	1	▲0	30	31	19



6. 完成工事高および完成工事総利益(率)【連結】

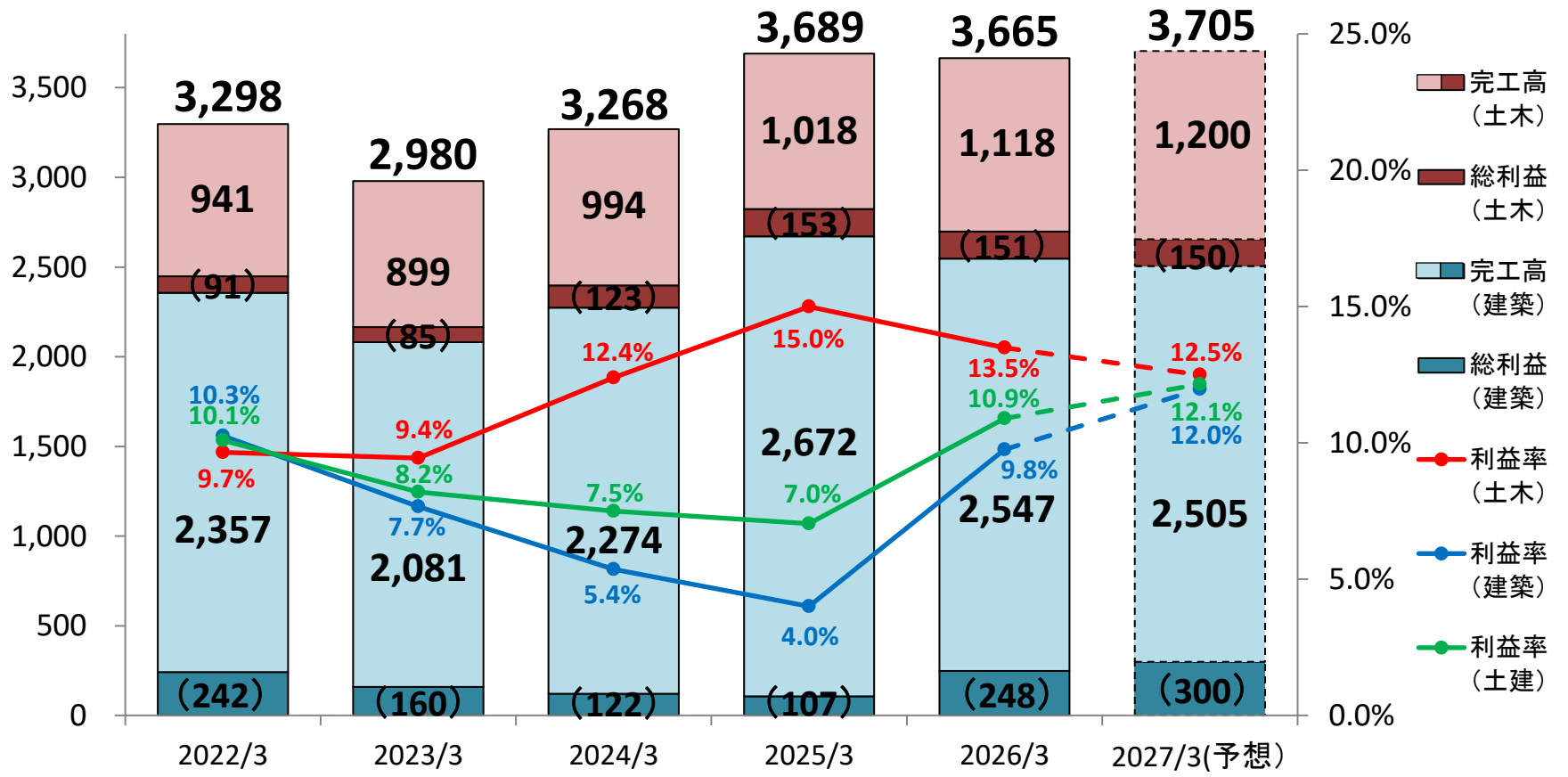
- 26/3期は完工高は減少したが、利益率の改善により増益となる
- 27/3期は完工高の増加と単体の利益率改善により、増収増益の見込み



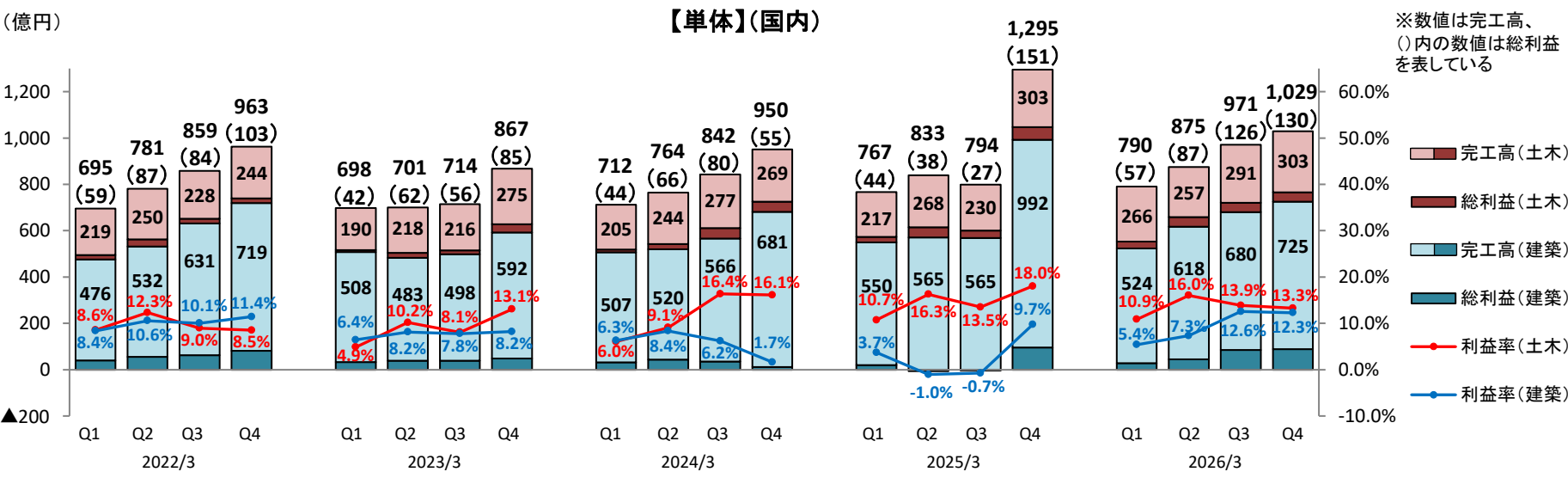
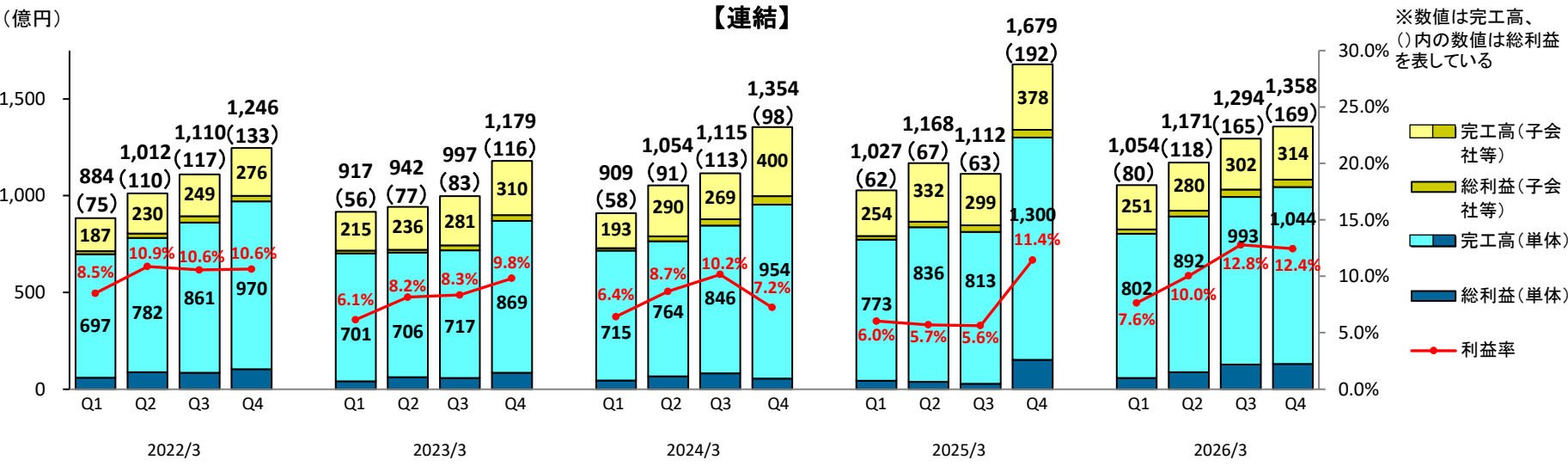
7. 完成工事高および完成工事総利益(率)(国内)【単体】

- 土木事業は設計変更の獲得等による出来高の増加により増収
- 建築事業は受注時粗利益率の向上や不採算工事の影響減少により増益
- 27/3期は、建築事業の受注時粗利益率の向上と不採算工事の影響解消により、利益率が改善し増益の見通し

(億円)

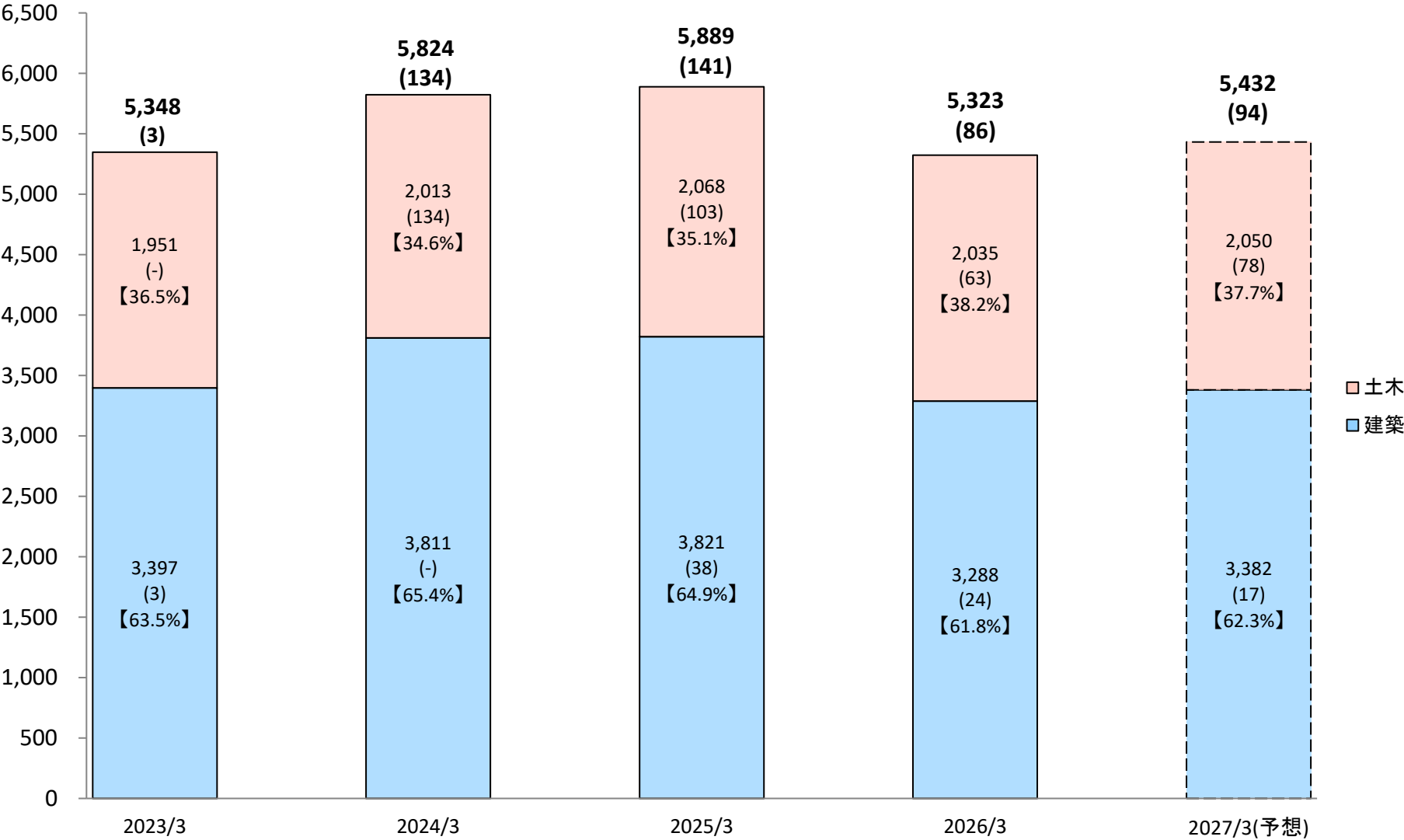


8. 四半期毎の完成工事高および完成工事総利益(率)の推移【連結】【単体】

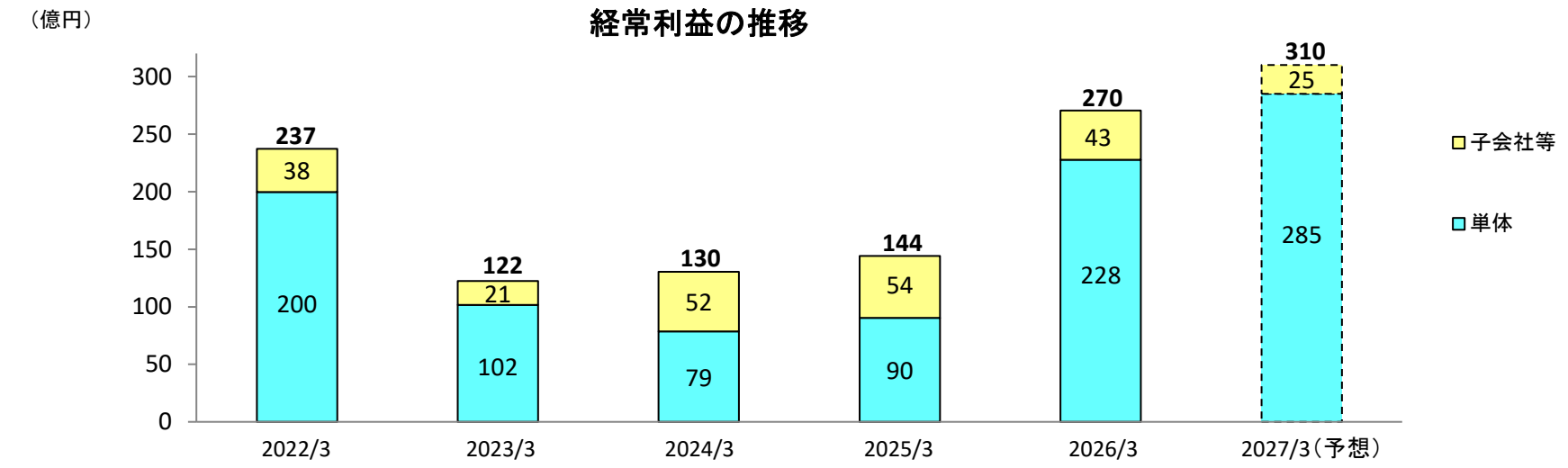
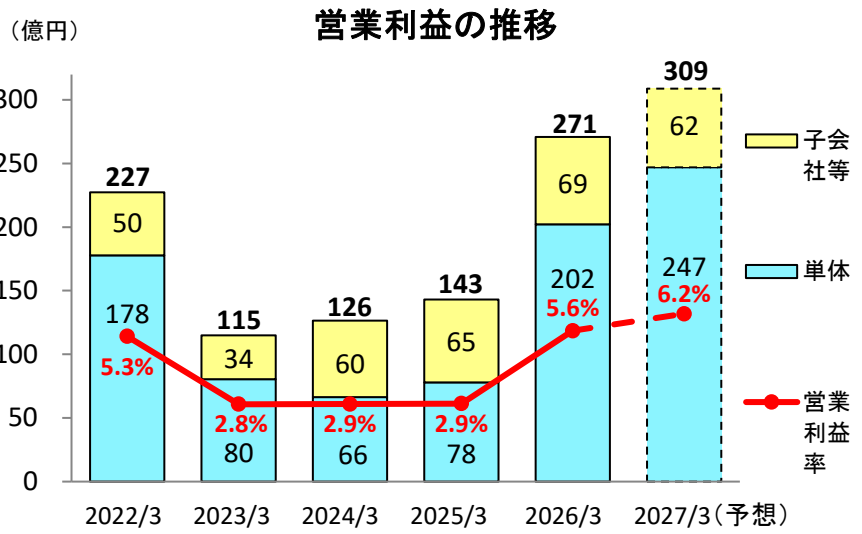
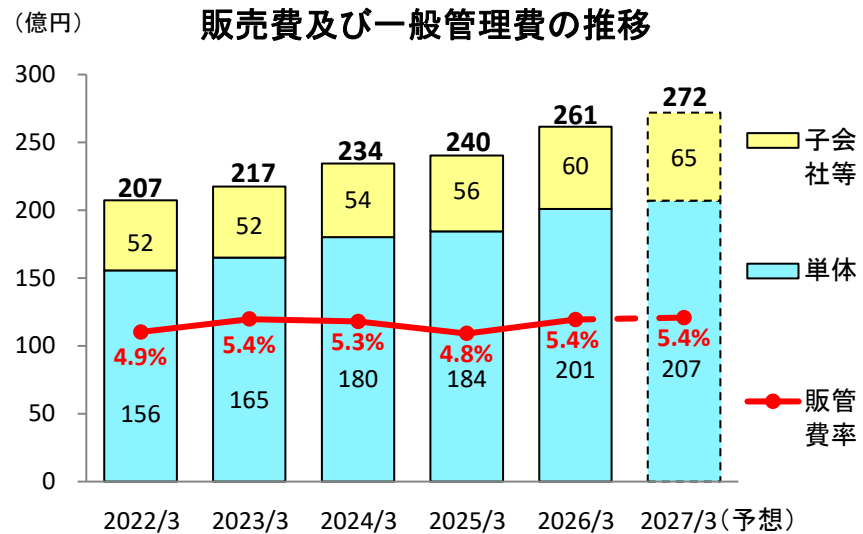


9. 繰越工事高の推移【単体】

繰越工事高(億円) ※()内は、海外繰越工事高
 ※【】内は、構成比率



10. 販売費及び一般管理費、営業利益および経常利益の推移【連結】



11. 貸借対照表① 資産【連結】

【連結貸借対照表】(資産)

(単位: 億円)

	A.2025/3期			B.2026/3期			B-A		
	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等
現金預金	502	219	283	647	339	308	145	120	25
受取手形・完成工事未収入金等	2,645	2,310	335	2,406	2,054	352	▲ 239	▲ 256	17
未成工事支出金	73	60	13	77	67	10	4	7	▲ 3
未収入金	321	266	55	224	181	44	▲ 97	▲ 86	▲ 11
その他	35	26	9	26	27	▲ 0	▲ 9	1	▲ 10
貸倒引当金	▲ 1	▲ 0	▲ 0	▲ 1	▲ 0	▲ 0	▲ 0	0	▲ 0
流動資産合計	3,574	2,880	694	3,379	2,667	713	▲ 195	▲ 213	18
建物及び構築物	103	65	39	98	60	38	▲ 6	▲ 5	▲ 1
土地	196	167	30	195	166	29	▲ 2	▲ 1	▲ 0
その他	25	13	11	80	15	65	55	2	53
有形固定資産合計	325	245	80	373	241	132	48	▲ 4	52
無形固定資産合計	17	16	1	20	19	1	3	3	▲ 0
投資有価証券・関係会社株式	504	541	▲ 37	492	530	▲ 38	▲ 11	▲ 11	▲ 1
長期貸付金	93	91	2	85	131	▲ 47	▲ 9	40	▲ 49
繰延税金資産	35	24	11	40	34	6	5	10	▲ 5
その他	80	8	71	102	28	73	22	20	2
貸倒引当金	▲ 2	▲ 0	▲ 2	▲ 2	▲ 0	▲ 2	1	-	1
投資等合計	709	664	45	717	724	▲ 7	8	60	▲ 52
固定資産合計	1,051	925	126	1,110	984	126	59	59	▲ 0
資産合計	4,625	3,804	821	4,489	3,650	839	▲ 136	▲ 154	18

11. 貸借対照表② 負債・純資産【連結】

【連結貸借対照表】(負債・純資産)

(単位:億円)

	A.2025/3期			B.2026/3期			B-A		
	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等	連結	単体	子会社等
支払手形・工事未払金・電子記録債務等	1,458	1,148	310	1,086	786	300	▲ 372	▲ 362	▲ 10
短期借入金	81	119	▲ 38	116	174	▲ 58	35	55	▲ 20
未払法人税等	14	6	8	84	68	15	70	63	7
未成工事受入金	228	209	19	181	163	18	▲ 46	▲ 46	▲ 0
預り金	366	344	22	406	384	22	40	40	▲ 0
工事損失引当金	24	22	1	9	7	2	▲ 15	▲ 15	0
賞与引当金	41	27	14	46	30	16	5	3	2
その他	82	64	18	150	117	33	67	53	15
流動負債合計	2,294	1,939	355	2,077	1,729	348	▲ 217	▲ 210	▲ 6
社債	-	-	-	85	85	-	85	85	-
長期借入金	340	340	-	297	288	9	▲ 44	▲ 52	9
株式給付引当金	3	3	-	2	2	-	▲ 1	▲ 1	-
退職給付に係る負債/退職給付引当金	163	139	24	141	135	6	▲ 23	▲ 4	▲ 19
繰延税金負債	1	-	1	0	-	0	▲ 1	-	▲ 1
その他	6	5	1	9	5	4	2	▲ 0	2
固定負債合計	513	486	27	533	515	18	20	28	▲ 8
負債合計	2,807	2,426	381	2,611	2,244	367	▲ 197	▲ 182	▲ 15
株主資本合計	1,681	1,265	417	1,753	1,321	432	72	57	15
その他の包括利益累計額	137	114	23	125	85	40	▲ 12	▲ 29	18
非支配株主持分	-	-	-	0	-	0	0	-	0
純資産合計	1,818	1,379	439	1,879	1,406	472	60	27	33
負債及び純資産合計	4,625	3,804	821	4,489	3,650	839	▲ 136	▲ 154	18
(自己資本比率)	39.3%	36.2%	53.5%	41.8%	38.5%	56.3%	+2.5%	+2.3%	+2.8%

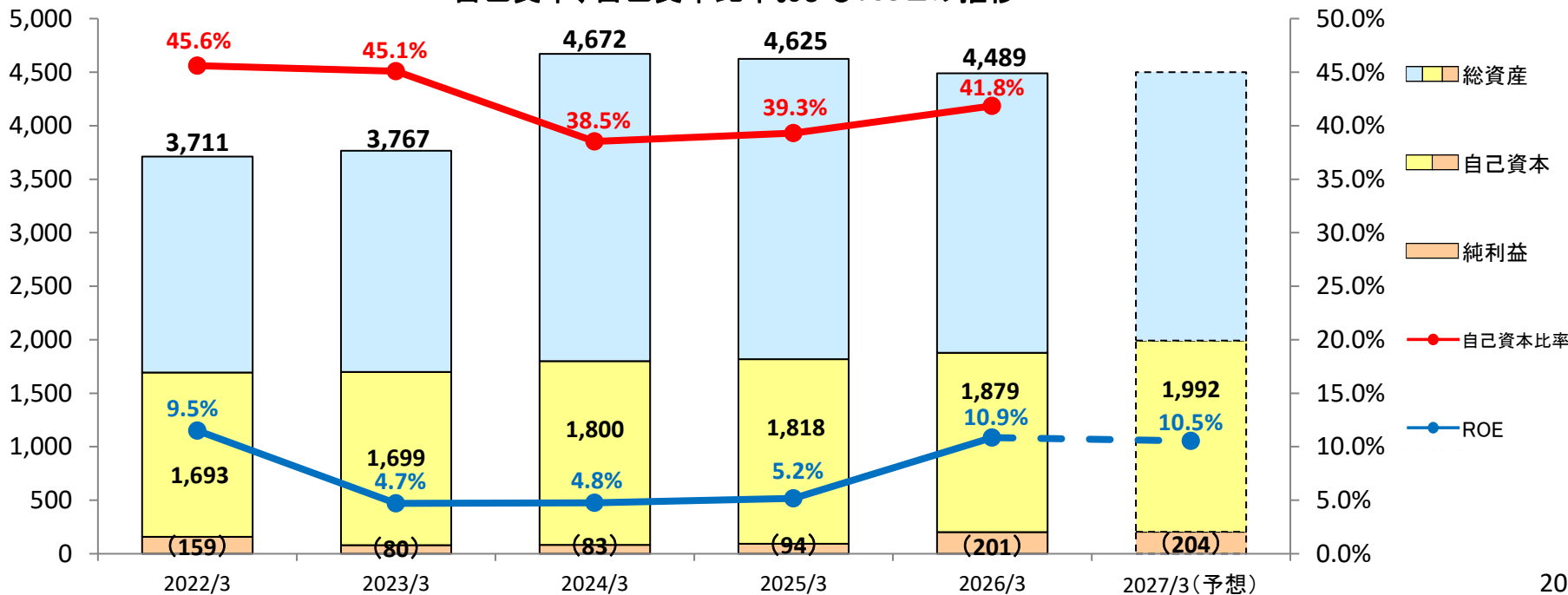
12. 自己資本、自己資本比率およびROE【連結】

- 利益計上により自己資本が増加し、前期末に比べ自己資本比率は41.8%に上昇
- 当期純利益の増加により、26/3期のROEは前期比5.7pt増加し、10%超となる

自己資本、自己資本比率およびROEの状況 (単位: 億円)

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3 (予想)
自己資本	1,693	1,699	1,800	1,818	1,879	1,992
総資産	3,711	3,767	4,672	4,625	4,489	-
自己資本比率	45.6%	45.1%	38.5%	39.3%	41.8%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	159	80	83	94	201	204
ROE(自己資本利益率)	9.5%	4.7%	4.8%	5.2%	10.9%	10.5%

自己資本、自己資本比率およびROEの推移



13. 株主還元【連結】

- ・ 26/3期は、中間配当を合わせ47円/株、配当性向は40.2%
- ・ 27/3期は、増益見通しにより配当額は50円/株、配当性向は41.6%

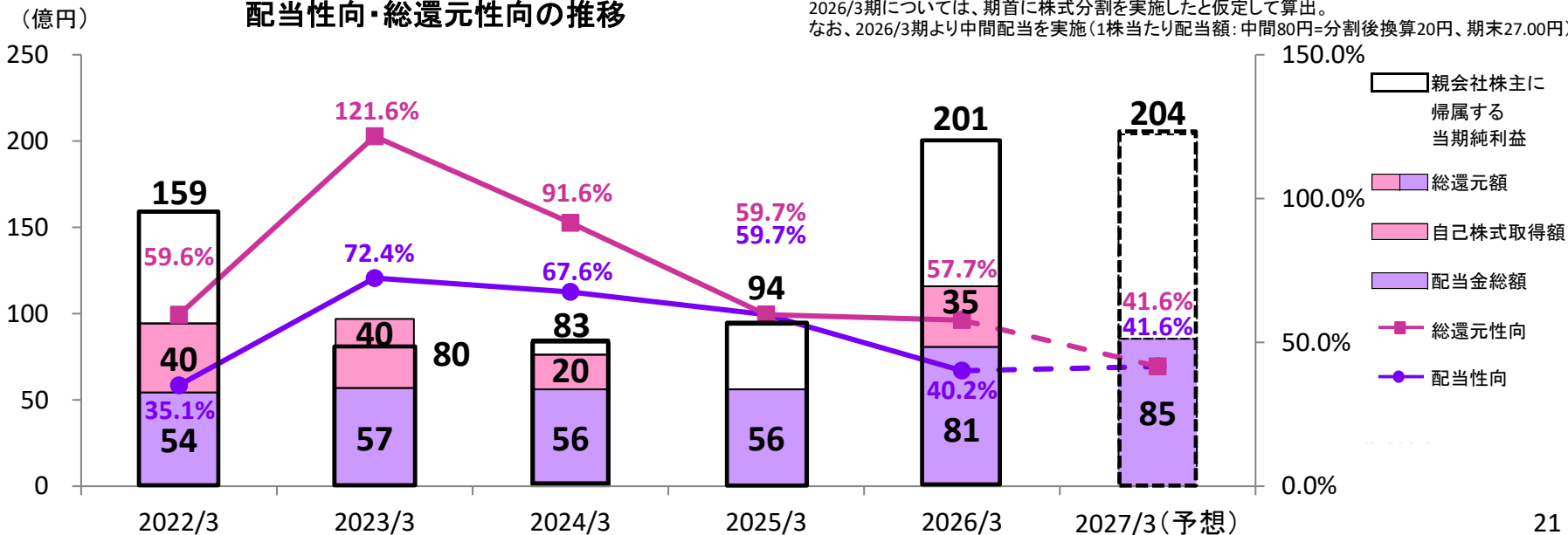
配当金の状況

(単位: 億円)

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3(予想)
発行済株式数	45,411,660株	43,900,360株	43,285,560株	43,285,560株	173,142,240株	173,142,240株
自己株式数	▲58,169株	▲62,644株	▲69,781株	▲74,626株	▲2,218,412株	▲2,218,412株
1株当たり配当額	120.00円	130.00円	130.00円	130.00円	47.00円	50.00円
配当金総額	54	57	56	56	81	85
親会社株主に帰属する当期純利益	159	80	83	94	201	204
1株当たり当期純利益	342.13円	179.64円	192.36円	217.73円	116.94円	120.06円
配当性向	35.1%	72.4%	67.6%	59.7%	40.2%	41.6%
自己株式取得	40	40	20	—	35	—
総還元額	94	97	76	—	116	—
総還元性向	59.6%	121.6%	91.6%	59.7%	57.7%	41.6%

※ 2025年10月1日を効力発生日として、1株につき4株の割合で株式分割。
 2026/3期については、期首に株式分割を実施したと仮定して算出。
 なお、2026/3期より中間配当を実施(1株当たり配当額: 中間80円=分割後換算20円、期末27.00円)

配当性向・総還元性向の推移



14. 有利子負債【連結】

• 有利子負債の増加により、D/Eレシオは上昇

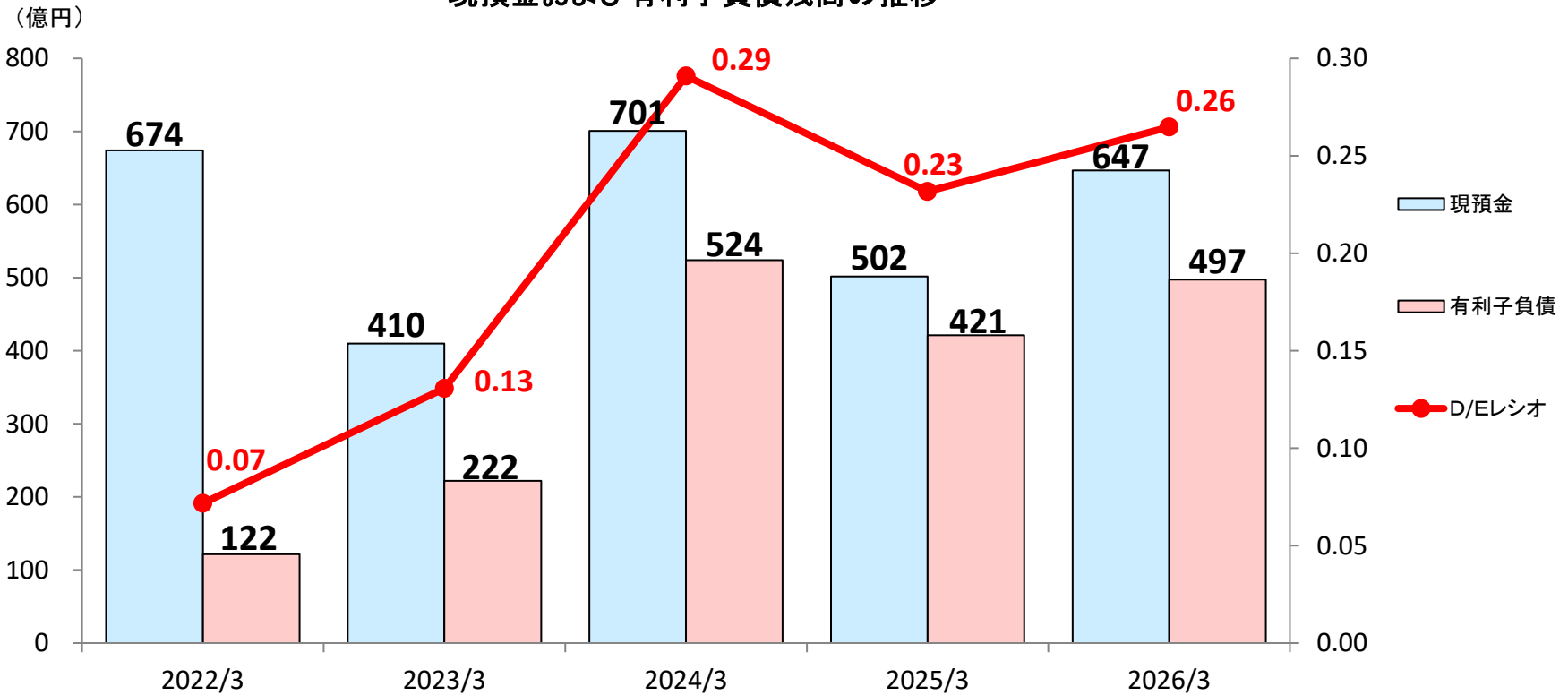
有利子負債の推移

(単位: 億円)

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
有利子負債残高	122	222	524	421	497
自己資本	1,693	1,699	1,800	1,818	1,879
D/Eレシオ	0.07	0.13	0.29	0.23	0.26

※D/Eレシオ
有利子負債 ÷ 自己資本

現預金および有利子負債残高の推移



15. キャッシュ・フロー【連結】

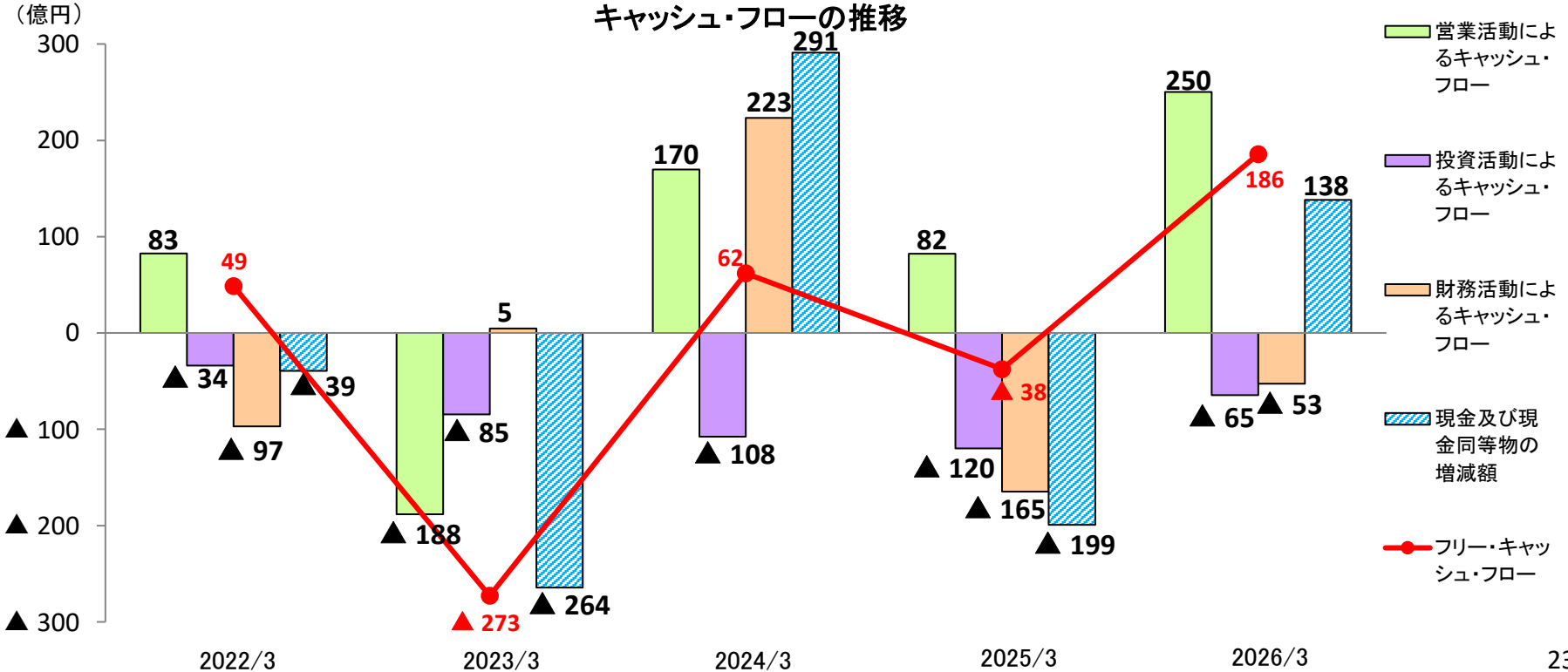
・営業CFは3期連続でプラス、投資CFは設備投資及び貸付金の増加等によりマイナス、財務CFは配当金の支払いや自己株式取得でマイナス、全体額は138億円のプラス

キャッシュ・フロー

(単位: 億円)

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	83	▲ 188	170	82	250
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 34	▲ 85	▲ 108	▲ 120	▲ 65
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 97	5	223	▲ 165	▲ 53
現金及び現金同等物の増減額※	▲ 39	▲ 264	291	▲ 199	138

※為替換算による増減を含む



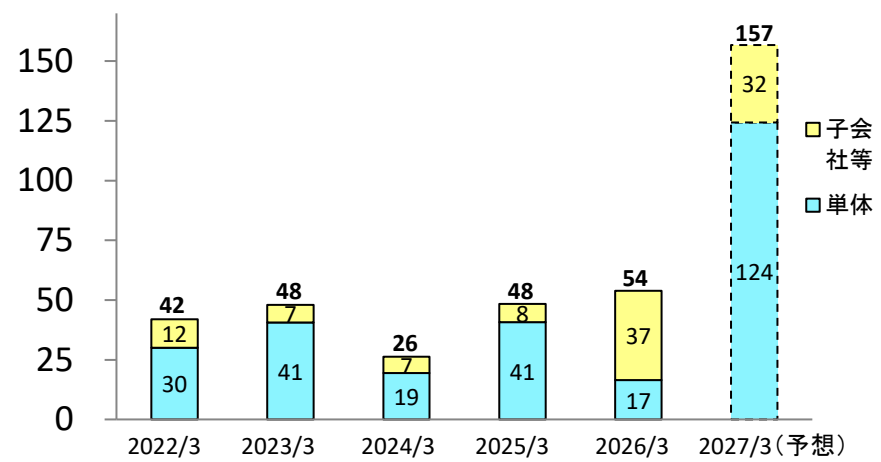
16. 設備投資、減価償却費、研究開発費の推移【連結】

設備投資等の状況(連結) (単位: 億円)

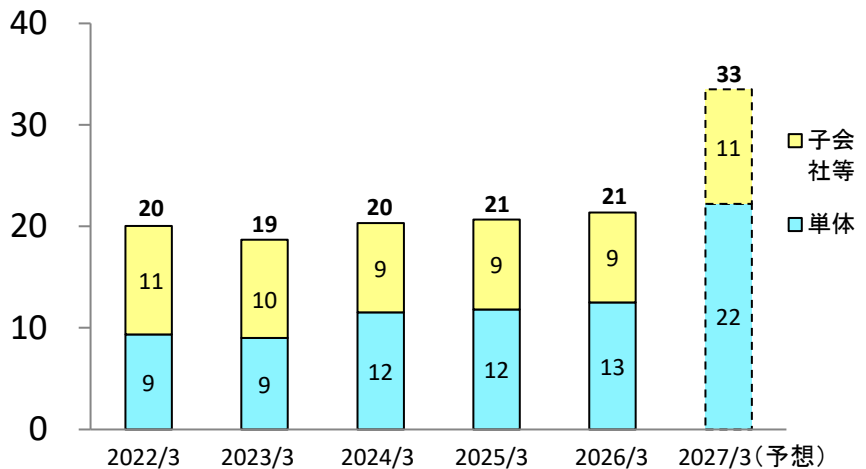
	2022/3	2023/3	2024/3
設備投資	42	48	26
減価償却費	20	19	20
研究開発費	27	28	31

	2025/3	2026/3	2027/3(予想)
設備投資	48	54	157
減価償却費	21	21	33
研究開発費	31	34	38

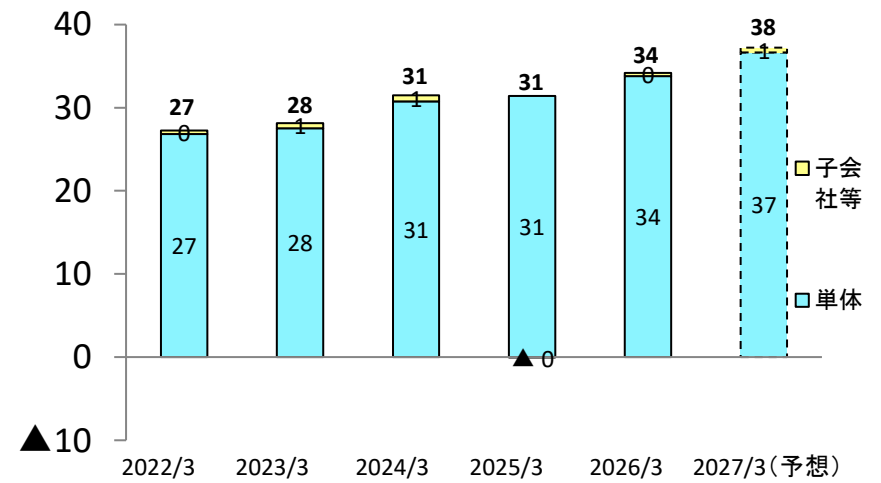
(億円) 設備投資の推移



(億円) 減価償却費の推移



(億円) 研究開発費の推移



17. 中東情勢及び米国の関税措置による事業および業績への影響

現下の中東情勢が当社グループの事業及び業績に与える影響については、現時点では限定的であり、間接的なリスクに留まるものと認識しております。また、2025年8月の米国関税に関する合意についても、当社グループは米国との輸出入取引がないため、直接的な影響はありません。

間接的な影響

1

中東情勢が沈静化せず、長期化した場合は、建設物価の高騰やサプライチェーンの混乱リスク、物流コストの上昇が懸念され、それに起因した民間顧客の設備投資計画の中止や先送りが考えられます。

2

米国への輸出高が多い自動車や関連部品、半導体製造装置等のメーカーの国内における設備投資が手控えられ、生産分野の受注高が減少することが考えられます。

事業環境認識

原材料費の上昇継続は懸念事項ではあるものの、請負金額への価格転嫁が浸透しつつあるほか、物価スライド条項の活用に係る法的整備がなされたことは、適正な利益確保に向けた大きな前進であり、事業環境の安定化に寄与するものと考えております。



引き続き中東情勢及び米国の関税措置による事業環境の変化を注視してまいります。

企業価値向上に向けた取組み

資本コストや株価を意識した経営



18. 企業価値向上に向けた取組み①

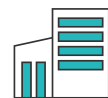
基本的な考え方

- 持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ることが、経営上の最も重要なミッションと認識
- 財務健全性と資本効率の両立に向けた取組みを実施
- 事業投資において、資本コストをハードル・レートのベースに最適な経営判断
- 株価を意識しながら株主還元の拡充や資本効率の向上を図るため、適正かつ安定的な配当や自己株式の取得・消却などを実施

収益力の拡大

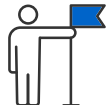
2023年度以降の受注時採算は大幅に良化。低採算工事の影響は2024年度中に概ね解消し、中計期間中の利益向上を見込む(中計)

基本方針1 建設事業の強化



コア事業である建設事業を強化し、収益性を高める

基本方針2 周辺事業の加速



成長領域と位置づける周辺事業を加速し、確固たる収益源を創出する

基本方針3 経営基盤の充実



経営を支える基盤を充実させ、事業推進の実効性を高める

「稼ぐ力」「選ばれる力」を徹底的に強化するとともに、周辺事業を加速させ、両利きの経営を目指します

株主・投資家との建設的な対話の実現に向けた取組み

- IR活動の更なる強化に向けた体制整備を目的として、IR専任部署を強化するなど社内リソースの適切配分を実施(2025年4月よりIR専任部署を経営企画部内に移管し、経営陣や経営企画部門と連携のとりのしやすい体制を整備)
- 経営陣自らが株主・投資家との対話に積極的に参加し、直接コミュニケーションを実施
- 投資家向けテレビ・ラジオ番組に社長が出演し、アナリストやコメンテーターとの対談を通じて株主・投資家にPR
- 社外取締役が経営を監督する立場として、ガバナンスの現状や課題認識等について株主・投資家との対話を実施
- 対話状況の開示充実のため、対話テーマを統合報告書及びコーポレートサイトで開示し、更なるエンゲージメントに繋げる(対話回数や対応者、フィードバックについては従前よりコーポレートサイトおよびコーポレート・ガバナンス報告書で開示)
- 対話を通じて把握した株主・投資家の意見や要望等については、主旨や傾向等を分析し取締役会で議論するなど経営へフィードバックすることにより、株主還元、資本政策、投資戦略等の参考とし企業価値向上に活用
- ESG・SDGs戦略のひとつに「投資家との積極的対話」を掲げ、財務情報はもとより非財務情報について積極的に対話
- IR方針を含むディスクロージャー・ポリシーを制定し、当社グループの情報開示やIRに対する積極的な姿勢や方針を公表
- フェア・ディスクロージャーの観点から、決算情報及び適時開示情報の英文の同時開示を実施

18. 企業価値向上に向けた取組み②

株主・投資家との対話の状況

前年度に引き続き、オンラインツールを活用した国内外の株主・投資家との個別ミーティングやスモールミーティング、決算説明会や現場見学会の開催、投資家カンファレンスへの参加等様々な手段で対話を実施しました。
 また、株主・投資家との建設的な対話を促進するための体制整備・取組みとして、IR専任部署を強化するなど社内リソースの適切配分を実施し、その実施状況等についてコーポレートサイトならびにコーポレート・ガバナンス報告書にて開示しました。

数値目標 3カ年(2024~2026年度)と実績

対話者数増加率 **10%増** (前年度比)
 (ミーティングや決算説明会参加者数)

➔ 2025年度実績 増加率 **22.5%増**
 (2024年度 同 34.4%増)

2025年度	回数	主な対応者
スモールミーティング	6回	社長や担当部署など
個別ミーティング	138回	社長や担当役員、担当部署など
SR面談	10回	担当役員、担当部署など
決算説明会	2回	社長や担当役員、担当部署など
証券会社主催カンファレンス	2回	社長や担当役員、担当部署など
現場見学会	2回	担当部署など

項目	対話の主なテーマ
建設事業環境	<ul style="list-style-type: none"> 受注概況や受注時採算 中長期的なトップラインや目標マージン水準 国内土木事業の利益率水準の継続性 国内建築事業の利益率低下要因と見通し 損失工事の発生要因と竣工時期 中東情勢悪化による原油高騰等の業績影響について 資材費や労務費など建設コスト高騰の状況や見通し 高騰したコストの価格転嫁と契約へのスライド条項の織り込み状況 協力会社の確保状況と需給バランス 事業環境認識や今後の見通し
建設周辺事業	<ul style="list-style-type: none"> 飯田橋再開発事業や不動産投資の状況 SEP船への投資や洋上風力発電への取組み 投資の進捗状況と収益計上時期の見通し
業務資本提携	<ul style="list-style-type: none"> 中大規模木造建築の取組状況 住友林業(株)との株式持分比率の変更について 住友林業(株)との資本提携の方向性について
資本政策/株主還元	<ul style="list-style-type: none"> 中期経営計画の進捗状況と次期中期経営計画の検討状況 最適な資本構成に関する考え方 自己資本比率水準と追加還元に関する考え方 自己株式取得規模決定の背景と資金使途
サステナビリティ、ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 人的資本経営 2024年問題(時間外労働上限規制適用)への対応状況と影響 ZEB、GX市場、脱炭素バイオマス燃料「ブラックバークペレット」 監査等委員会設置会社へ移行の背景 政策保有株式の縮減状況及び更なる縮減に向けた方針



上田社長が日経CNBC「昼エクスプレス」、ラジオNIKKEI「この企業に注目！相場の福の神」に出演

18. 企業価値向上に向けた取組み③

資本コストに対する現状認識と資本効率向上に向けた対応

● 株主資本コスト：7%程度と認識

中期経営計画(2024~2026年度)【財務目標】

● 資本効率：ROE10%以上(27/3期)

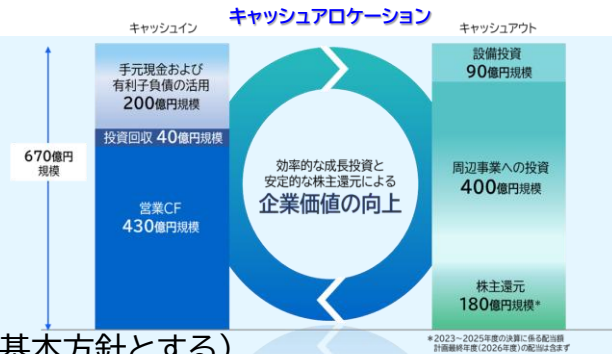
自己資本比率45%程度(財務健全性と資本効率の両立)

さらなる政策保有株式等の縮減に向けた取組みを取締役会決議

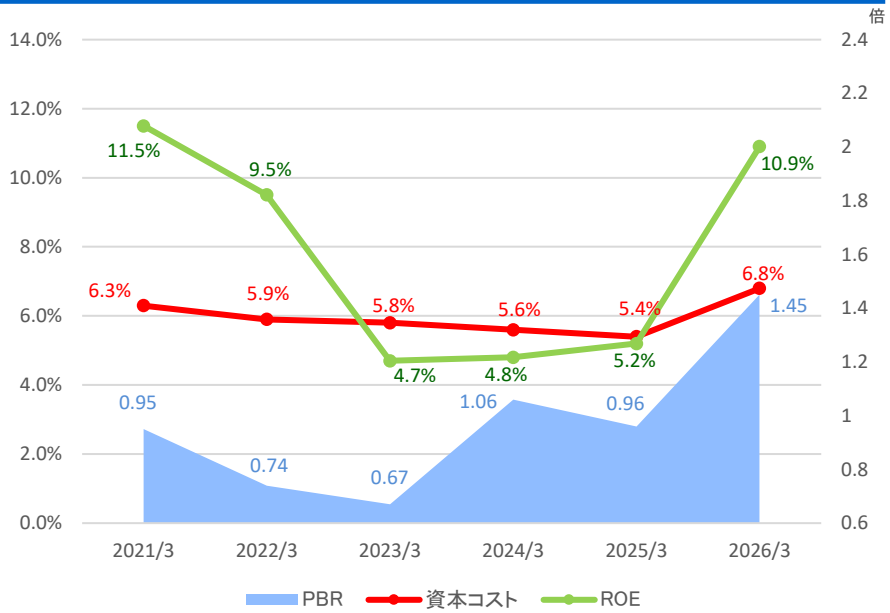
● 利益配分：配当性向40%目途(適正かつ安定的に利益還元していくことを基本方針とする)

● 自己株取得：事業環境の変化や各事業戦略・投資の進捗に応じて、機動的に検討(前中期経営計画期間に100億円実施)

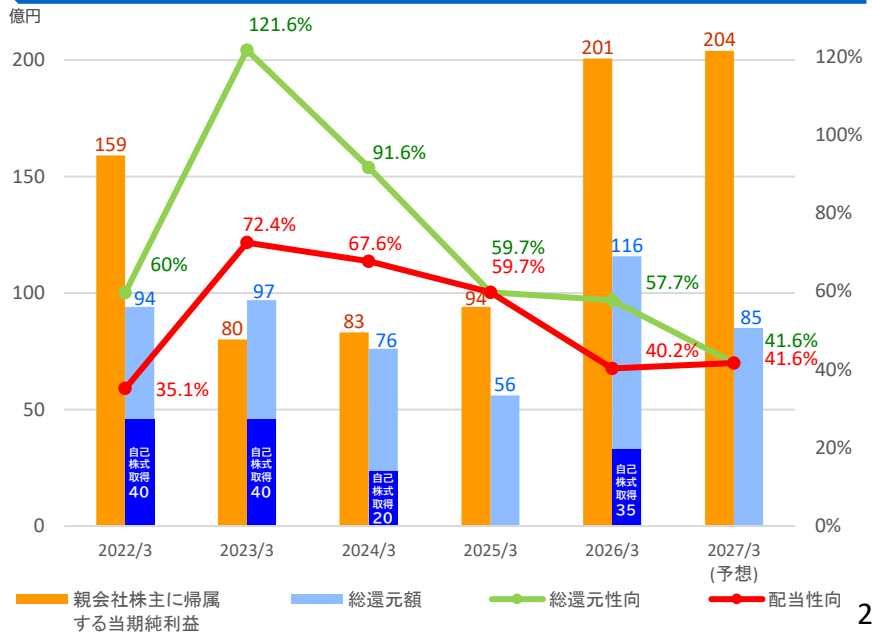
住友林業による当社株式の売出し及び投資有価証券(住友林業株式)の売却を踏まえ、株主還元の拡充並びに資本効率の向上を図るため、2026.1.30~2026.3.19の期間に35億円の自己株式を取得しました。(2026.1.8取締役会決議)



資本コスト・ROE・PBRの推移



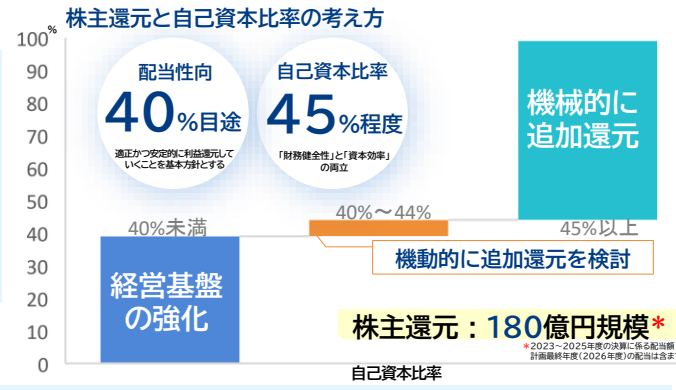
株主還元の推移



18. 企業価値向上に向けた取組み④

株主還元 ~中期経営計画(2024~2026)~

- 企業価値向上に向け、財務健全性を維持しつつ資本効率の最適化を目指します(自己資本比率45%程度)。
- 株主還元については、適正かつ安定的に利益還元していくことを基本方針とします。配当性向40%を目安とし、事業環境の変化や各事業戦略・投資の進捗に応じて、自己株式の取得を含め機動的に追加還元を検討します。



投資計画 ~中期経営計画(2024~2026)~

- 期間中に400億円規模の周辺事業への投資と90億円規模の設備投資を計画
- これまでの周辺事業への投資リターンが期間中に一部発現
- 2024年度から経営会議体として「投資戦略委員会」(委員長:社長)を設置
外部アドバイザーを委員として招き入れ、指導や助言を受けながら
全社的な投資戦略を検討・策定・モニタリング
- 経営基盤の充実にに向けた投資も拡充

外部アドバイザー

屋城 勇仁 Yuji Yashiro

インテグラル株式会社
エグゼクティブディレクター(現任)

京都大学経済学部卒
2011年よりGCAIにおいてM&Aアドバイザー業務に従事、
建設/インダストリアルなど多様な業種の案件を担当。
2018年にインテグラルへ参画し、様々な投資案件を担当、東洋エンジニアリング/テクセンドフォトマスク/旭化成メディカルでは常駐支援を通じ、ガバナンス体制強化や企業価値向上を推進。



長期構想実現のため計画期間以降も投資を継続し、
2035年度までに「年間収益**130億円規模**」を目指す

*累計の投資に対し、期間中に計上される収益

18. 企業価値向上に向けた取組み⑤

2022年7月から熊谷組の企業認知の拡大を目的に、企業広告を強化しています。

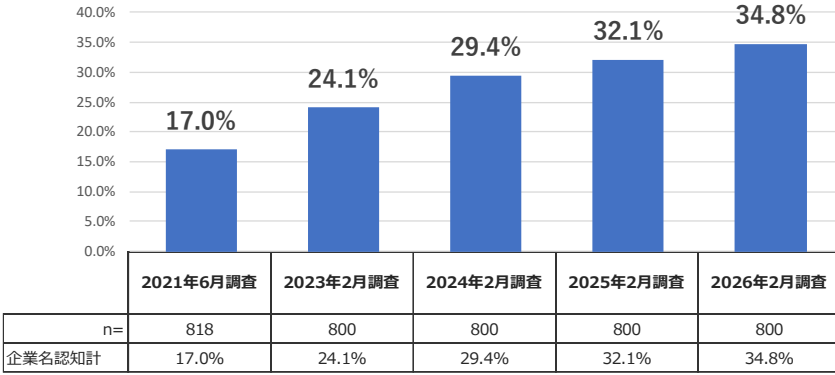
期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ①採用活動支援 ②営業支援 ③インナーモチベーションの向上
主な実施施策	<ul style="list-style-type: none"> ①テレビCM ②WEB広告(Yahoo!、Google、SNS広告等) ③交通広告(駅デジタルサイネージ、車内ビジョン等) ④ラジオCM ⑤新聞広告

「笑顔を叶える」篇



【子世代の熊谷組認知度】 企業広告開始前の17%から34.8%へUP

* 子世代：就職活動を実施する意思を持つ18~29歳の大学生・大学院生



調査方法：自社インターネット調査（調査会社のアンケートモニターを使用）
調査範囲：全国

住友林業との協業



熊谷組

×



住友林業

=

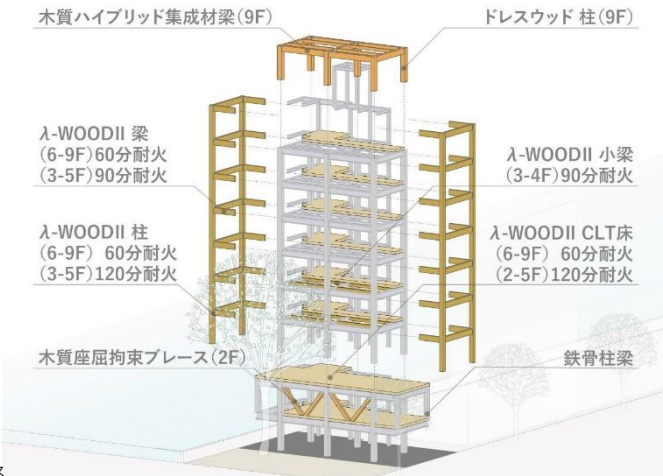
with TREE

19. 住友林業との協業 ～中大規模木造関連の主な実績～

中大規模木造建築の実績

熊谷組 × 住友林業 × with TREE

(株)サンケイビル初の木造ハイブリッド建築「(仮称)秋葉原木造オフィスビル計画」を受注しました。本計画では、当社らが共同開発した「KS木質座屈拘束ブレース」が地震力を負担し、新耐火技術である「環境配慮λ-WOOD II 1.5時間」と「CLT床1、2時間」を初採用します。最上階の梁には住友林業が認定を取得している木質ハイブリッド集成材を採用し、木材が感じられる設えとします。



工事名	発注者	構造・階数	用途	住友林業との協業内容
(仮称)H'O外苑前新築工事	野村不動産(株)	RC造/W造・7階塔1階	事務所	木造材料を調達
(仮称)H'O芝公園新築工事	ウッドデザイン賞 野村不動産(株)	S造/W造・13階	事務所	木造材料を調達
ゆづくしSalon一の坊 清流館客室改修工事	(株)一の坊	SRC造・7階/2階	宿泊	JV、住友林業ホームテック協力
KAGAプロジェクト新築工事	JV初組成 (株)BeppoCorporation	S造/SRC造・10階/1階	事務所	JV、木造材料を調達
大川荘 月見亭 香草改修工事	大川荘	SRC造・7階/1階	宿泊	住友林業ホームテック協力
2025年大阪万国博覧会パビリオン建設	玉山デジタルテック(株)	S造	博覧会建物	営業協力
県庁第二別館新築工事	愛媛県	S造・11階/1階	庁舎・議会棟	ZEB・CLT耐震壁
みどりが丘小学校分離新設校建設工事	八千代市	RC造/W造・3階	校舎・体育館	JV
霧島温泉天テラス改修工事	ふじリゾート(株)	RC造/W造	宿泊	住友林業ホームテック協力
(仮称)秋葉原木造オフィスビル計画	(株)サンケイビル	S造/W造・9階	事務所	JV、木造材料を調達
いわきプロジェクト	(株)木環の杜	S造・1階	工場	JV
(仮称)H10中洲川端新築工事	野村不動産(株)	S造・10階	事務所	木質材料を調達
(仮称)小伝馬町計画新築工事	当期受注 橋本総業ホールディングス(株)	RC造・11階/1階	住宅	JV
Play Earth Park Naturing gym棟新築工事	当期受注 (株)PLAYEARTH PARK	W造・2階	娯楽施設	分担施工
(仮称)HERE(R)四谷三丁目開発プロジェクト	当期受注 高砂熱学工業(株)	S造・9階	事務所	JV

19. 住友林業との協業 ～取組成果と中期経営計画(2024～2026)の目標～

過去6年間(2018.4～2024.3)の取組成果

中期経営計画(2024～2026)の目標

木化・緑化関連建設事業



- 累計受注高** 970億円 *1
「with TREE」ブランドの立ち上げ ウッドデザイン賞
→JV組成や資材調達協力により、事務所ビルのH'IOシリーズ、公共施設等複数の木造の協業案件を受注
- 累計売上高** 710億円
CO2算定ソフト「One Click LCA」を導入
→環境負荷低減効果を見える化して協業案件を受注
- 完成工事総利益** 44億円
緑化の付加価値提案
→住宅、大学施設、事務所ビル(PREXシリーズ)等の環境緑化案件を協業で受注

- 受注高** 1,200億円
●中大規模木造建築「with TREE」と環境緑化建築の2本柱の更なる強化
- 売上高** 1,000億円
●顧客のニーズに合わせた各種CO2削減技術の提案強化
- 完成工事総利益** 90億円 *3
●緑化提案による大型案件の受注拡大、環境不動産への取組・受注促進

再生可能エネルギー事業



- 累計投資高** 3億円 *2
「ブラックバークペレット(BBP)」の製造・販売
→事業運営会社【ローカルエナジーシステム㈱】2023年5月に設立。最初の製造拠点を「愛媛県西条市」に置き、ペレット製造工場建設に着手

- 投資額** 100億円規模
●「ブラックバークペレット事業」の拠点整備、製造・販売事業の確立(2026年度より製造・販売を開始予定)
●再生可能エネルギー事業への参画

海外事業



- 累計投資高** 70億円 *2
米・豪州・欧州でのESG配慮型不動産・木造開発案件の組成
→住友林業/クレセント社が組成するESG配慮型不動産ファンドへの投資
- 東南アジア(インドネシア・ベトナム)開発案件への共同参画**
→インドネシアにおける商業複合施設開発事業に参画

- 計上収益** 30億円 *4程度
●海外不動産開発事業への継続投資、国内不動産開発事業の開拓
●成長著しい東南アジアおよび環境意識の高い欧米における収益案件・開発案件への参画など不動産ファンド投資
- 住友林業、NTT都市開発、現地大手不動産開発会社Kim Oanh Groupとの協業で、ベトナム国ホアラン・タウンシップ開発事業をスタート

共同研究開発



- 「KS木質座屈拘束ブレース」の共同開発**
→ウッドデザイン賞2023受賞 ウッドデザイン賞
- 木材需要拡大のための高層木造建築物の汎用型設計技術の開発(PRISM)**
- 「林業機械システムの自動化による省力化の研究(林業機械システムの月面での運用)」**

- 「KS木質座屈拘束ブレース」ほか各種開発技術の物件への採用
- 木造木質技術開発を含む脱炭素社会の実現に資する技術開発の推進

シナジー拡大

*1 設計段階から両社が関与し、当社グループ各社の受注に寄与した案件を計上
*2 両社が参画するプロジェクトへの当社の出資額

*3 利益率9%以上を目指す
*4 累計の投資に対し、期間中に計上される収益

19. 住友林業との協業 ～中期経営計画(2024～2026)での取組み～

方針

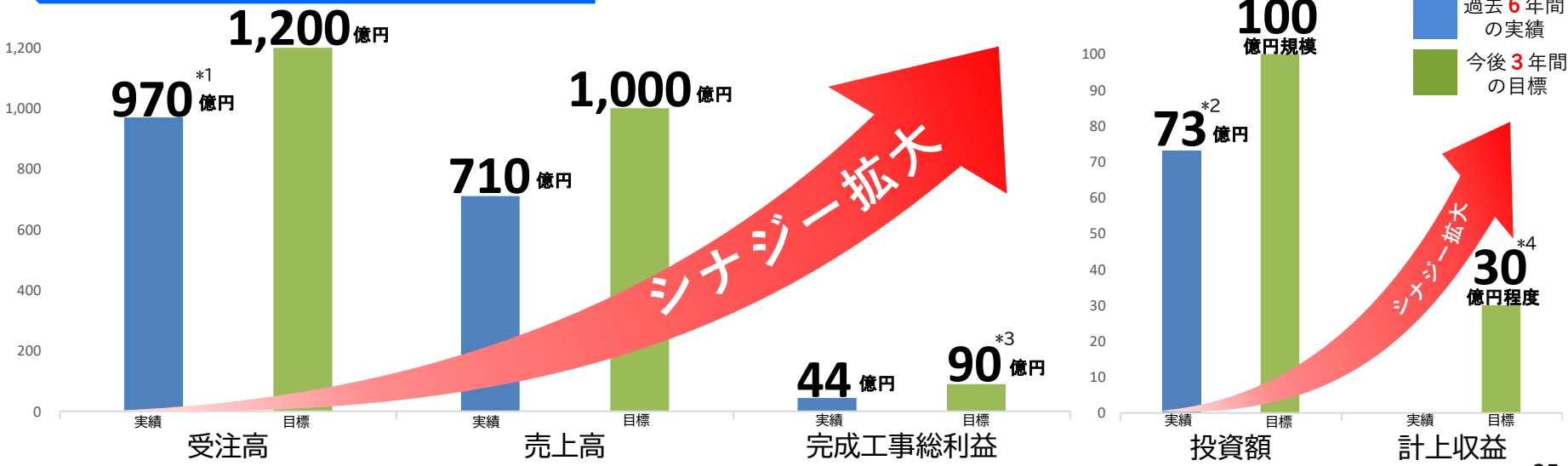
- ・ 中大規模木造建築事業においては、協業で積み上げてきた知見や提案力および木造建築に関する住友林業のブランド力を活かし、更なる受注拡大を目指します。
- ・ 住友林業が得意とする海外不動産開発事業への継続投資、並びに国内における環境配慮型不動産事業への参画を検討し、事業領域の拡大を目指します。

- 建設事業
 - ・ 中大規模木造建築「with TREE」と環境緑化建築の2本柱の更なる強化
 - ・ 顧客のニーズに合わせた各種CO₂削減技術の提案強化
- 投資
 - ・ 海外不動産開発事業への継続投資、国内不動産開発事業の開拓
 - ・ 「ブラックバークパレット事業」の拠点整備、製造・販売事業の確立
 - ・ 海外再生可能エネルギー事業への参画
- 技術開発
 - ・ 木造木質技術開発を含む脱炭素社会の実現に資する技術開発の推進

株式持分比率の変更について
 2026年1月、資本効率を高め更なる株主価値の向上を目的として、保有株式の約3割を相互に売却し、住友林業が保有する当社株式は15.9%(売却前21.6%)、当社が保有する住友林業株式は1.7%(同2.5%)となりました。

実績(過去6年間)と目標(今後3年間)

～ 新中期経営計画期間中に更なるシナジー創出を目指します ～



*1 設計段階から両社が関与し、当社グループ各社の受注に寄与した案件を計上 *2 両社が参画するプロジェクトへの当社の出資額 *3 利益率9%以上を目指す *4 累計の投資に対し、期間中に計上される収益



陶朱隱園（台北市）

非財務目標の取組み状況



20. ESG取組方針

● 熊谷組グループはサステナビリティの基本方針を「ESG取組方針」として掲げています。

- 1 熊谷組は、環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)の視点から解決すべき重要課題(マテリアリティ)を特定し、持続可能な事業活動を追求していく。
- 2 熊谷組は、グループが保有する技術・経験・ノウハウを活用して新たな価値を創造し、SDGsに代表される社会課題の解決に貢献する事業活動を展開していく。
- 3 熊谷組は、事業活動を通じてステークホルダーとのコミュニケーションによる信頼関係の構築に努め、企業価値の向上を目指していく。

重要課題(マテリアリティ)の改定

以下の理由により、2024年5月に重要課題(マテリアリティ)の改定と現時点において経営に影響がある個別課題の見直しを行いました。



1. 重要課題・個別課題を検討した当時(2018年度)からの外部環境の変化

激甚化する自然災害や新型コロナウイルス感染症のパンデミック、ロシアのウクライナ侵攻など特定の地域が抱える政治的・軍事的な緊張の高まりが当社グループの事業に対して、大きな影響を与えました。

2. 社会からの要請への対応

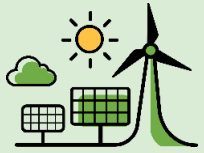
品質の確保や人権の尊重といった項目が掲げられておらず、社会からの期待に十分に答えられていない可能性がありました。社会からの要請にこたえるため、この度の改定においては従業員、投資家、お客様、有識者といったステークホルダーの意見を伺いました。

21. ESG取組方針～重要課題・個別課題～

	重要課題(マテリアリティ)	個別課題	関連するSDGs
	気候変動リスクへの対応	①カーボンニュートラルの達成 ②再生可能エネルギー事業の強化	   
	環境に配慮した事業の推進	③ゼロエミッションの達成 ④木造建築事業の強化 ⑤環境配慮型技術の開発 ⑥ネイチャーポジティブの実現	
	多様な人財が能力を発揮できる ウェルビーイングの実現	①人財の確保と投資 ②技術の継承 ③DXの推進 ④ワーク・ライフ・バランスの実現 ⑤ダイバーシティの推進 ⑥建設業の担い手確保 ⑦ウェルネスな環境の実現 ⑧労働災害防止	      
	持続可能なコミュニティの実現	⑨品質の確保と誠実なものづくりの推進 ⑩魅力あるまちづくり ⑪レジリエントな社会インフラの構築 ⑫社会課題解決に繋がる取組み ⑬自然災害など有事への取組み	
	コーポレートガバナンスの強化	①コンプライアンスの徹底 ②リスクマネジメントの強化 ③取締役会の実効性向上 ④人権の尊重	  
	マルチステークホルダーとの 関係強化	⑤CSの向上 ⑥サプライチェーンマネジメントの強化 ⑦情報発信力の強化 ⑧投資家との積極的対話	

21. 重要課題・個別課題 指標と目標 <環境>

E



重要課題(マテリアリティ)

個別課題

気候変動リスクへの対応

- ①カーボンニュートラルの達成
- ②再生可能エネルギー事業の強化

関連するSDGs

環境に配慮した事業の推進

- ③ゼロエミッションの達成
- ④木造建築事業の強化
- ⑤環境配慮型技術の開発
- ⑥ネイチャーポジティブの実現



ESG取組方針		事業における取組み・具体的行動	3か年(2024~2026年度) 指標と目標 (KPI) *は各年度	2024年度実績	新目標 (青字)	
重要課題 (マテリアリティ)	個別課題					
気候変動リスク への対応	カーボンニュートラルの達成	CO2排出量の削減活動	スコープ1+2: Δ42% (2019年度基準) スコープ3: Δ25% (2029年度目標)	スコープ1+2: Δ4.2% スコープ3: 13.4%	継続中	
	再生可能エネルギー事業の強化	再生可能エネルギー事業の推進強化	再生可能エネルギー事業の実施・取組み件数 国内10件以上 / 海外4件以上	国内 実施3件、取組み5件 海外 1件		
環境に配慮した 事業の推進	ゼロエミッションの達成	混合廃棄物の削減活動	総混廃排出率: 2.0%以下*	1.7%	目標の変更なし	
	木造建築事業の強化	中大規模木造建築事業の取組み、受注拡大	国内受注: 3件以上 / 海外出資: 3件以上	国内 5件 / 海外 1件	国内: 各年度4件以上 海外: 継続中	
	環境配慮型技術の開発	カーボンニュートラルに向けた研究の強化	技術開発取組み: 6件以上		11件	16件以上
		環境配慮型建築(ZEB等)への取組み	環境関連提案: 6件以上		7件	各年度6件以上
ネイチャーポジティブの実現	生態系の回復に関する事業	脱炭素燃料開発、 販売事業の拠点整備: 2件以上		1件	継続中	
		品質環境マネジメントシステムの運用と改善	施工中の重大な環境事故件数: 0件*	0件	目標の変更なし	

21. 重要課題・個別課題 指標と目標 <社会>

S



重要課題(マテリアリティ)

多様な人材が能力を発揮できる
ウェルビーイングの実現

持続可能なコミュニティの実現

個別課題

- ①人財の確保と投資
- ②技術の継承
- ③DXの推進
- ④ワーク・ライフ・バランスの実現
- ⑤ダイバーシティの推進
- ⑥建設業の担い手確保
- ⑦ウェルネスな環境の実現
- ⑧労働災害防止
- ⑨品質の確保と誠実なものづくりの推進
- ⑩魅力あるまちづくり
- ⑪レジリエントな社会インフラの構築
- ⑫社会課題解決に繋がる取組み
- ⑬自然災害など有事への取組み

関連するSDGs



ESG取組方針		事業における取組み・具体的行動	3か年(2024~2026年度) 指標と目標 (KPI) *は各年度	2024年度実績	新目標 (青字)
重要課題 (マテリアリティ)	個別課題				
多様な人材が 能力を発揮できる ウェルビーイングの実現	人財の確保と投資	新卒採用活動	新卒採用者数:各年度の検討(132名)	115名	2026年4月:124名*4
		従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントレーティング :レーティング*1「BB」	B	継続中
	技術の継承	国家資格の取得支援	一級土木施工管理技士保有率:90%以上*	92.8%	目標の変更なし
			一級建築施工管理技士保有率:1%以上/年UP*	△0.3%*2	
			一級建築士保有率:1%以上/年UP*	△0.8%*3	
	DXの推進	ICTの標準化による現場管理の効率化	新規現場導入率:100%*	98.7%	継続中
		基幹システムの刷新	システム開発進捗率:100%	85%	
	ワーク・ライフ・バランスの実現	仕事とプライベートの両立等 業務の効率化・平準化への取組み	休日取得:4週8休(作業所)*	83.5%	目標の変更なし
			時間外労働時間:30時間以下*	16.4時間	
	ダイバーシティの推進	女性活躍推進行動計画	新任管理職に占める女性の割合:7%以上*	32.1%	
子の出生に伴う男性の休暇取得率:70%以上*			89.4%		
建設業の担い手確保	現場公開による担い手確保	現場・職場見学会の開催:100件以上*	土木 105件 / 建築 227件		
ウェルネスな環境の実現	従業員の健康管理	二次健康診断受診率:100%*	51.5%		
労働災害防止	安全管理水準の向上	度数率:0.5以下*	0.74		

※1 (株)リンクアンドモチベーション「モチベーションクラウド」 ※2 保有率:2023年度(87.2%)、2024年度(86.9%) ※3 保有率:2023年度(56.0%)、2024年度(55.2%)
 ※4 新卒採用者数については、達成状況にかかわらず毎年目標を見直しています

21. 重要課題・個別課題 指標と目標 <社会>

S



重要課題(マテリアリティ)

多様な人材が能力を発揮できる
ウェルビーイングの実現

持続可能なコミュニティの実現

個別課題

- ①人財の確保と投資
- ⑤ダイバーシティの推進
- ②技術の継承
- ⑥建設業の担い手確保
- ③DXの推進
- ⑦ウェルネスな環境の実現
- ④ワーク・ライフ・バランスの実現
- ⑧労働災害防止

- ⑨品質の確保と誠実な
ものづくりの推進
- ⑪レジリエントな社会インフラの構築
- ⑩魅力あるまちづくり
- ⑫社会課題解決に繋がる取組み
- ⑬自然災害など有事への取組み

関連するSDGs



ESG取組方針		事業における取組み・具体的行動	3か年(2024~2026年度) 指標と目標(KPI) *は各年度	2024年度実績	新目標 (青字)
重要課題 (マテリアリティ)	個別課題				
持続可能な コミュニティの実現	品質の確保と 誠実なものづくりの推進	品質環境マネジメントシステムの運用と改善	施工中の重大な品質事故: 0件*	0件	目標の変更なし
	魅力あるまちづくり	不動産事業の拡大	収益不動産・事業参画 : 国内3件以上 / 海外1件以上	国内 2件 / 海外 1件	国内: 継続中 海外: 3件以上
		市街地再開発の取組み	取組み件数(内定~施工中件数): 6件以上	6件	継続中
	レジリエントな 社会インフラの構築	アジア諸国の社会課題の解決	インフラ整備案件受注: 2件以上	海外0件	
		多様な自然災害に対応するインフラ整備 (防災減災)	取組み件数: 20件以上	59件	各年度20件
	社会課題解決に繋がる取組み	社会の将来を見据えた技術の開発	技術開発取組み: 6件以上	11件	13件以上
		新規事業創出	取組み件数: 事業化2件以上	取組み1件	継続中
社会貢献活動の推進	参加者数(延べ人数)の増加	2,312名(192名増加)		各年度参加者数の増加	
自然災害等有事への取組み	自然災害など有事に関する技術開発	開発件数: 2件以上	4件	4件以上	

21. 重要課題・個別課題 指標と目標 <ガバナンス>

G



重要課題(マテリアリティ)

コーポレートガバナンスの強化

マルチステークホルダーとの関係強化

個別課題

- ①コンプライアンスの徹底
- ②リスクマネジメントの強化
- ③取締役会の実効性向上
- ④人権の尊重

- ⑤CSの向上
- ⑥サプライチェーンマネジメントの強化
- ⑦情報発信力の強化
- ⑧投資家との積極的対話

関連するSDGs



ESG取組方針		事業における取組み・具体的行動	3か年(2024~2026年度) 指標と目標(KPI) *は各年度	2024年度実績	新目標 (青字)
重要課題 (マテリアリティ)	個別課題				
コーポレート ガバナンスの強化	コンプライアンスの徹底	社内外の法令違反防止体制の構築	重大な法令違反発生件数: 0件*	0件	目標の変更なし
	リスクマネジメントの強化	大規模災害発生時の従業員安否確認	訓練時の安否確認システム応答率: 100%*	100%	
	取締役会の実効性向上	取締役会の実効性の評価と改善	外部専門家を含めた評価の向上	取組み中	継続中
	人権の尊重	人権リスクの防止・軽減に向けた取組み	人権デューデリジェンスの実施 : 対象企業の拡大	取組み中	
マルチステークホルダー との関係強化	CSの向上	CS向上に向けた取組みの推進	顧客満足度: 100%*	95.3%	目標の変更なし
	サプライチェーン マネジメントの強化	「調達方針」「調達方針ガイドライン」の遵守	不正な取引の件数: 0件*	0件	
	情報発信力の強化	適時適切かつ積極的な情報開示	ESG評価機関等による評価の向上	取組み中	継続中
	投資家との積極的対話	機関投資家等との対話の積極的な実施	ミーティングや決算説明会への参加者数 : 10%増(前年度比)	34.4%増	各年度10%増(前年度比)

22. 外部からの評価・イニシアチブへの参画



国連グローバル・コンパクト
署名・加入



「気候関連財務情報開示タスクフォース
(TCFD)」
提言への賛同



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

「SBTイニシアチブ」
認定



THE CLIMATE GROUP CDP

国際イニシアチブ「RE100」加盟



CDP気候変動部門
「Aリスト」選定



CDP水セキュリティ部門
「A-スコア」選定



CDPサプライヤー・
エンゲージメント評価
「サプライヤー・エンゲージ
メント・リーダー」選定



「エコ・ファースト企業」
認定



「水循環ACTIVE企業」
認証



「日本気候リーダーズ・パートナーシップ
(JCLP)」
賛助会員として加盟



「ZEBプランナー」
登録



「ZEHデベロッパー」
登録



「自然関連財務情報開示タスクフォース
(TNFD)」
提言への賛同

「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」
賛同



「えるぼし」認定
最高位3段目を取得



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
人規模法人部門
「健康経営優良法人2025」
(大規模法人部門)選定



「なでしこ銘柄」
選定



「新・ダイバーシティ経営企業100選」
選定



LGBTQへの取組みを評価する
PRIDE指標の「ゴールド」受賞



「子育てサポート企業」認定
(くるみん認定)



法務省「Myじんけん宣言」
賛同



法務省「Myじんけん宣言」
性的マイノリティ編
賛同



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
構成銘柄に選定



「FTSE Blossom Japan
Sector Relative Index」
構成銘柄に選定



経済産業省
「DX認定事業者」選定



経団連1%クラブ
加入

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組

(将来事象に関する注意事項)

本資料に記載されている戦略や計画、数値目標等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、経営環境の変化等によって変動する可能性がありますことをご承知おきください。